

社 会 科 教 室

第 164 号

平成 2 8 年度

香川県小学校教育研究会社会科部会

香川県小学校社会科教育研究会

今こそ、社会科の目標に立ち返ろう

若者の政治離れが言われ始めて久しいわけですが、若者の投票率は年々低下傾向にあり、20代に限ると3割を切っているのが現状です。このことは、単に投票率が低下しているだけでなく、若者を中心に社会への興味・関心が欠如し、社会の一員として社会をよりよくしていこうとする意欲そのものが、失われつつあるようにも思えます。以前に比べて、国民一人あたりのGDPが下がったとはいえ、日本はまだ物質的には豊かであり、しかも便利で安全な生活を送っています。世界を見渡しても、こんな素晴らしい国はそれほど多くはありません。ただ、この先、少子高齢化やグローバル化等が進む中、国民の社会への関心が薄れ、社会に関わろうとする意欲が低下するならば、今の社会を維持・発展させていくことは困難になるのではないのでしょうか。

そんな中、この夏の参議院選挙からは投票年齢が引き下げられ、18歳になると選挙権を得て国政に参加することになります。18歳と言え、小学校卒業後、僅か6年後となり、小学校の社会科の在り方も大きく問われることになります。小学校社会科の目標は、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」です。社会に対して大きく目を開き、自ら社会の一員として社会に参画していこうとする資質・能力を、どの子にもしっかりと身に付けさせ、中学校へ送り出すことが私たちにとっての大きな使命です。

社会科はご承知のとおり、第2次世界大戦後初めて創設された教科です。創設された当時、社会科は民主主義を担う花形教科として大いに期待さ、知識を教えることよりも考えることを重視し、子どもが問題を解決していくことを中核に据えていました。また、当時、先輩たちは社会科の授業を通して、社会を明るくよりよくしようと教材研究にも熱い情熱を持って取り組んだと言われています。今なお、その精神はしっかりと受け継がれ、これまで数々の実践研究がなされてきました。本研究会においても、調べ学習の構築をはじめ、思考操作や問いと論証の在り方、子どもものの反応の教材化等、優れた指導法を生み出してきました。

ただ、冒頭でも触れましたように、若者の政治離れに象徴されるように、社会にかかわろうとする意欲が失われつつある中、社会科本来の目標が十分果たしているのかと問われれば、決して十分とは言いきれません。そんな中、『どのように学ぶか』の資質・能力を育て、社会科の魅力を創る教育」をテーマに、全国小学校社会科研究協議会研究大会並びに第41回四国社会科教育研究大会香川大会が、高松市立十河小学校、観音寺市立観音寺小学校で開催されます。子どもたちの将来を見据え、どのような資質・能力を育てることが、今、求められているのか、社会科部員の叡智を結集するとともに、県外参加者の実践や意見も参考にしながら社会科の魅力を探っていこうではありませんか。1年間、どうぞ、よろしくお願いします。

香川県小学校教育研究会社会科部会
香川県小学校社会科研究会
(部) 会長 森 正 彦

研究主題

「どのように学ぶか」の資質・能力を育て、社会科の魅力を創る教育

香川大学教育学部附属高松小学校 河田 祥司

Ⅰ 研究主題について

1 研究主題設定の背景

- 中央教育審議会教育課程部会、総則・評価部会における議論の取りまとめ(案)が公表された。予測困難な未来を生きる力を育むために、小学校から高校までを見通した教育課程の編成や、教科横断的な視野に立つ評価規準など、資質・能力をベースとした改訂作業が進められている。
- 資質・能力を育むために、「どのように学ぶか」が、学習内容と同等もしくはそれ以上に大切にすべきこととして着目されている。
- また、地域の拠点としての学校は、教育内容を教える教育機関から、地域の核として、地域、県や市の行政、各種団体と連携した「協働」する社会に開かれた学校づくりが求められている。
- 香社研では、地域の核となる学校や求められる資質・能力を社会科を通してどのように実現していけばよいか、「未来を切り拓くために必要な資質・能力」「社会に開かれた教育課程」という視点から社会科教育の在り方に迫りたい。
- 国が進めようとしている3観点の資質・能力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的な態度」だけに留まらず、予測困難な未来に柔軟に対応できるであろう基幹となる「どのように学ぶか」という学びの資質・能力「自己調整力」「再構成力」を育んでいきたい。
- そこで、昨年度までの研究主題である「自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力を創る教育」の研究を生かし、それを包含する主題「『どのように学ぶのか』の資質・能力を育て、社会科の魅力を創る教育」を掲げ、研究を進める。

2 研究主題のもつ意味

これまで社会科の大きな課題になっていることは、社会科学習が「知識」の重視に偏り、学ぶ喜びを感じにくくなってきていること、また、真の「理解」が伴っていないため、学ぶ価値が実感できにくくなっていくことなどが挙げられる。

一部の社会科を専門とする教員による授業では、教科書教材を基本にしながらも地域教材の活用を図り、内容を再構成して、子どもが主体的に学ぶ工夫を取り入れながら授業づくりを行っているのに対し、社会を専門としない教師が行う授業の中には、「教科書を読み内容をノートに書く学習」「教科書と教科書指導書により解説しながら板書する学習」「教科書と『社会科の基礎』(ワーク)による学習」など画一的で受け身的な学習が行われている場合も多く見られる。

このような現状から考えると、社会科の授業を子どもたちの主体的な学習、意欲を高めていく学習、そして探究することに喜びをもつ学習等にする必要がある。このような授業づくりを目指すことにより、現在課題となっているいじめや学習意欲の低下等の解決の糸口にもなっていくのではないだろうか。

「社会科の魅力」については、社会科発足当初の初期社会科の目標である、「社会の様々な問題について、自主的自律的に思考判断する能力を育てる」ことにより、その経緯をたどり社会科を見つめ直すことで、本来あるべき社会科教育の在り方が見えてくる。

そこで大切にしたいのが、「どのように学ぶか」の資質・能力である。問題や課題に出会った時、解決(ゴール)に向けて自己調整を図ったり、情報を組み替え再構成したことを目標と照らし合わせ、

自己を調整したりするなど、「自己調整」と「再構成」を往還させながら粘り強く課題解決に向かう学びの資質・能力（自己調整力、再構成力）である。

自己調整と再構成を通した学習は、社会（科）の問題と自分との距離を主体的に認知しようとする態度につながり、問題を自分（たち）ごとにするのを可能にする。

自分（たち）ごとになるからこそ、社会科を教師だけのものから子どもとつくる魅力的な社会科に変容させることができるのではないだろうか。

また、社会科としての価値を高めるものが社会的な事象の見方・考え方である。自己調整や再構成を往還させながら、見方・考え方を生かしたり生かしたりして、主体的で対話的・協働的な深い学びを保障していくことが大切である。

これらは、次頁図に示すように、社会的な事象の見方・考え方を通して社会生活を理解したり、思考・判断・表現したり、問題や社会に向かったりする態度を養うときの社会科固有の追究の視点である。

自己調整力と再構成力を育てながら、問題を自分（たち）ごとにし、教師と子どもがともに学び、自立した子どもが中心となって社会科の魅力を創っていくことを求めたい。

香社研では、社会科の魅力を4つの視点から創出することに挑戦したい。

視点① 教材の魅力を創る

視点② 学習問題の魅力を創る

視点③ 対話や協働の魅力を創る

視点④ 社会との関わり魅力を創る

視点①は、教材の魅力を創ることである。まず、社会科教育を通してどのような子どもを育てたいのか、目指す子ども像を各学校で明確にしておくことが必要である。このことが他の教科とちがう大きな魅力となっている。社会科が戦後一貫して求めてきたのは、「平和で民主的な国家及び社会の形成者」である。このことを念頭に置き、各校なり子ども像を描くことが大切である。そのような子どもを育てるために、中心となる教材、1つ1つの単元を通してどのような社会認識をつかませたいのかを明確にしておく必要がある。つかませたい社会認識を明確にしておくことは、教師の教材選択、授業での子どもへの瞬時の対応等の道しるべとなる。

視点②は、単元を見通す学習問題の魅力を創ることである。単元や1時間の授業の中で、子どもたちが意欲をもち、主体的に取り組んでいけるような学習にしていけるために、学習問題は重要である。問題解決に向けて自己調整と再構成を往還させるためにも、質の高い（社会科の本質に迫る）問題を設定する必要がある。教師が一方的に学習問題を告げるのではなく、子どもが問いをもち、解決したくなるような学習問題を、子どもと時間をかけて創っていくことを目指したい。

視点③は、対話や協働の魅力を創ることである。対話には自分との対話と他者との対話がある。他者と対話しながら再構成し、社会的な事象の意味や特色を理解したり、ノートを使いながら自分と対話をし、学びを意味付けていったりすることを通して、見えなかったものが見えるようになる喜びなどを味わうことにつながる。また、友達だけでなく地域の人や専門家の人と協働しながら問題を解決していくことにより、自分の立場を認識したり、社会の中の自分として生き方や在り方を考えたりすることができる。

視点④は、社会との関わりを創ることである。社会を認識（理解）するだけに留まらず、それをもとに、自分（たち）と社会との関わりを考える。ここには、正解はなかったり解が一つではなかったりする。社会認識をもとに、その子なりの納得解や最適解が許され、自分にとっての新たな社会認識が創り出す魅力があるのである。

【研究主題】

「どのように学ぶのか」の資質・能力を育て、社会科の魅力を創る教育

国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者を目指す

公民的資質・能力の基礎の育成

【「どのように学ぶか」の資質・能力】	自己調整力	再構成力
--------------------	-------	------

資 質 ・ 能 力		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的な態度
地域や我が国の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して、社会生活について理解するとともに、調査や諸資料から情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。	社会的事象の特色や相互の関連意味について多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、思考・判断したことを適切に表現する力を養うようにする。	社会的事象について、よりよい社会を考え課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに、多角的な考察や理解を通して涵養される地域社会に対する誇りと愛情、我が国の国上や歴史に対する愛情、地域社会の一員としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚を養うようにする。

単 元 の 評 価 規 準		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的な態度
社会生活についての理解 調べたりまとめたりする技能 「～を理解している。」 「～することができる。」	考察する力 構想する力 説明・議論する力 「～している。」	・社会的事象を調べたり考えたり振り返ったりする態度 ・社会に関わろうとする態度 「～しようとしている」

【追究の視点】社会的な見方・考え方（時間・空間・相互関係）

主体的で対話的・協働的な深い学びの実現に向けて

- 自己調整学習（見通し 振り返り，メタ認知）
- 再構成（思考操作）
- 社会科の魅力を創る「社会認識の視点と内容」をもとにした教材
- 社会科の魅力を創る3つの過程
- 思考図（ツール）の活用
- 「ゲストティーチャー」から「パートナー」へ

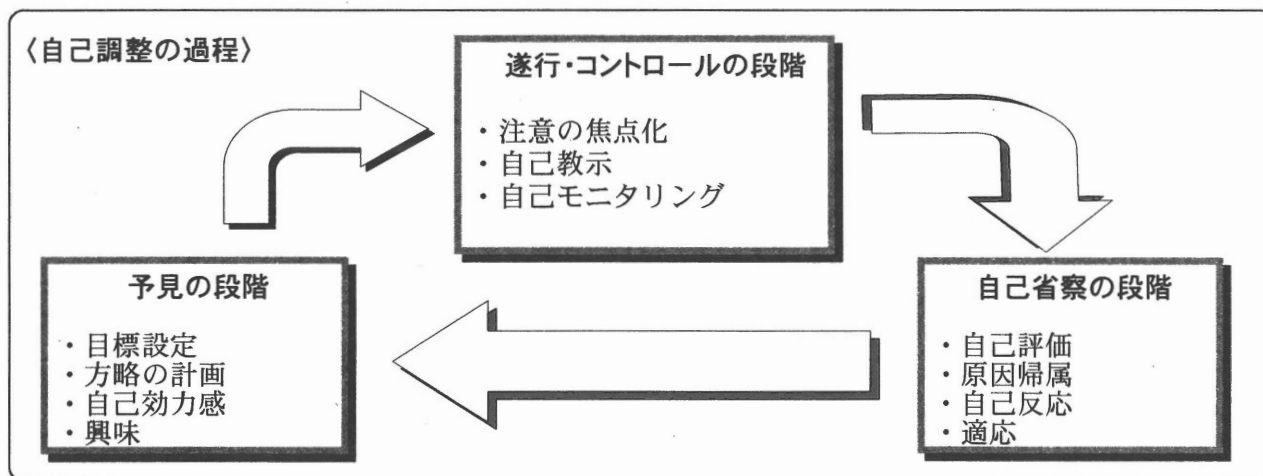
II 研究主題探究の方策

1 2つの学びの過程

「どのように学ぶか」の資質・能力（自己調整力、再構成力）は、主体的で対話的な深い学びを通して育まれる。このような学びにするために、2つの学習過程を取り入れる。

(1) 自己調整の学習

「自己調整」とは、目標到達を目指し、思考や感情、方略行動を自らが引き起こし、自己の内面を組織的、計画的に機能させていくことを指している。そして、自己調整は、図に示すとおり、「予見の段階」「遂行・コントロールの段階」「自己省察の段階」の3段階の循環的プロセスにより行われる。



自己評価（自分との対話）は学習過程における「自己調整」を促す。結果主義の評価ではなく、学習の過程における「過程主義」に立つ評価であり、このことを自己効力感を高める「自己調整」の過程としてとらえたい。

自己効力感とは、一定レベルの行動を遂行したり、獲得したりする能力に関する信念である。それは、人がある事態に対処する際、それをどの程度効果的に処理できると考えているかという認知を重視し、一定の結果へ導く行動を自らやれるという期待を抱く自覚を生じる自信のようなものをさす。

また、自己評価は、次の4つの意味ももつ。

- 自己評価は、自分自身の学習過程について自覚化し、強化することを促し、自己調整を図っていくことにつながる。
- 認知面と情意面が一体となった自己評価が効果的である。
- 自己評価には、認知的自己評価と情意的自己評価があり、子どもが自ら知識や技能を身に付けたり、獲得した知識や技能を積極的に生かすには、「学びや社会に向かう態度」のような情意面の評価を大切にすることが大切である。
- 自己の語り、日記、ポートフォリオなどの自己内省の練習に役立つ。また、ふり返りシートも役立つ。

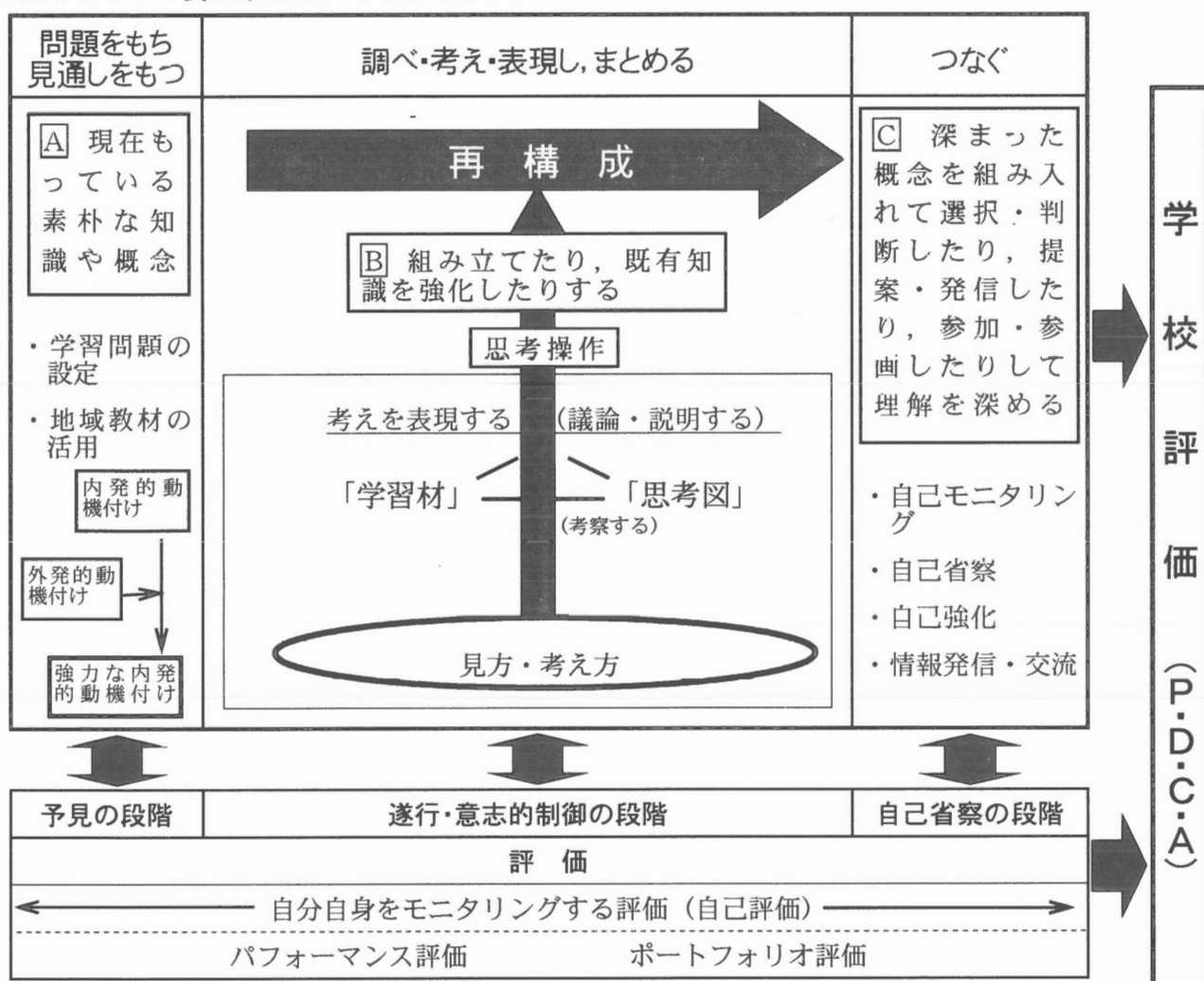
自己評価だけでなく、他者評価（他者との対話）も自己調整を促すことに有効である。他者の考えを聞いたり、自分の意見に対しての他者からの意見で自己を振り返ったりすることにつながるからである。

自己評価や他者評価を問題解決過程に組み入れ、自己効力感が高め、自己調整力が育んでいきたい。

(2) 再構成の学習

3つの段階をサイクル活動として展開する。3つの段階とは、「予見」「遂行・意思的制御」「自己省察」の段階である。大まかに言えば、「予見」は学習場面を設定し、見通しをもって取り組む計画を立てる段階、「遂行・意思的制御」は思考と表現の統一により再構成を図ることによって思考力を育てる段階、「自己省察」は、社会への参画につないだり、総括的な評価を入れた自己評価をしたりする段階と言える。この3つのサイクルが自己調整の過程であり、このサイクルを通して主体的に社会へ参画する意識を育てていく。

資質・能力は、図のように、**A**「現在もっている素朴な知識や概念」を、**B**「組み立てたり、既存知識を強化したり」して、**C**「深まった概念を組み入れて選択・判断したり、提案・発信したり、参加・参画したりして理解を深める」よう再構成することによって育てられる。その過程の活動が、自分自身を自己評価しながらメタ認知していく活動になる。また、「自ら社会への参画を求めること」とは、社会的な見方・考え方・在り方の学びを現実の社会につなぎ、一人一人が、社会の一員としての自覚をもち、参画につながるような意識をもったり、単元によっては、自らの活動や態度で示したりしていく姿を求めているものである。



このように、再構成には、学習問題に対して、調べたり考えたりしたことを再構成して表現し、まとめる単元レベルのものがある。

また、本時レベルの再構成も考えられる。見方・考え方を働かせながら、新たな情報によって本時の課題を解決するための再構成である。討論など、友達の発言に対して柔軟に構成し直すなど、繰り返行われるスパンの短い再構成である。

これらを自己調整と併用し、往還させながら繰り返し経験し、「どのように学ぶか」の資質・能力を育てていきたい。

2 社会科の魅力を創る方策

教材の魅力を創り、3つの段階「問題を持ち、見通しをもつ」「調べ、考え、表現し、まとめる」「つなぐ」を通じて社会科の魅力を子どもとともに創っていききたい。

(1) 教材の魅力を創る

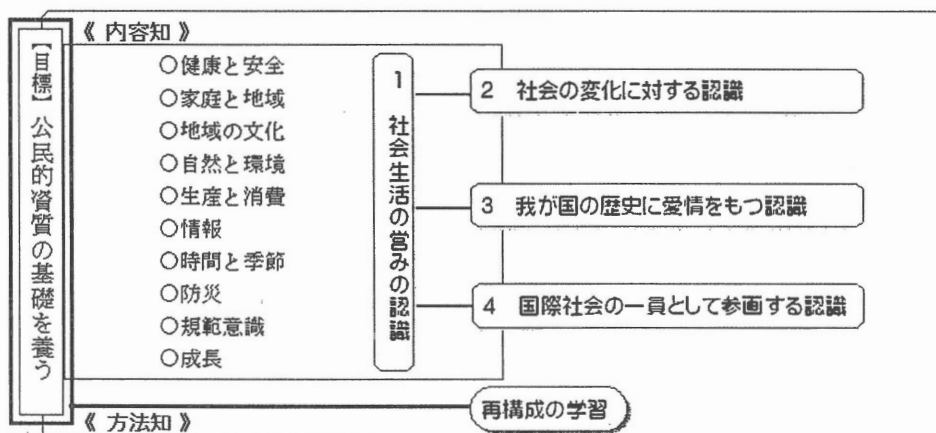
教材を選ぶ時、瞬間的な子どもの興味・関心を引き出し終わるような浅いものではなく、単元を貫くような奥行きのある教材を探すことや単元の本質を見極め、教材を選択することも大切である。そのために役立てたいのが、社会認識の視点と内容表である。【補助資料2】

「社会認識の視点の内容」から柱となる視点や内容（中心となる概念）を見極め、教材とつなげていくのである。どのような社会認識をつかむために、どのような教材を選ぶのかを考え、授業の骨格をしっかりと創りたい。

ここでいう社会認識をつかむとは「社会現象」について事象間のつながりを発見し、その間に横たわる論理を自らが構成していくことである。社会の具体的な現象を自ら分析し、その過程を通して社会についての認識を確かなものにしていく。この認識は単に事実の把握・理解ということではなく、目指す子ども像に結びつくものである。資質・能力を育てるためには、この単元ではどのような認識をつかませたいのか、教師が明確な意図をもつことが必要になってくる。

また、この認識は、教師による単なる教授によってはつかむことはできない。子どもたち自らが主体的に学ぶ中でこそ身に付くものである。それは、主体の中に矛盾や対立を意識化することから始まる。この矛盾や対立の意識を出発点として子どもの力による問題解決的な学習を通して、理解が深まっていく。それは知識の単なる集積ではなく、新しい問題や事態を切り拓いていく資質・能力でもある。

社会認識は、内容知と方法知に分けることができる。内容知は、科学知（社会諸科学、自然諸科学、人文諸科学）と人間知から成り立っている。このように、社会認識を社会諸科学だけでなく、他の諸科学に社会認識をひらくこと、これが一つの意味である。



もう一つは、社会認識に止まらず、社会との関わりを創出する「つなぐ」認識もある。

社会科の目標である公民的資質・能力の基礎を養うために、2つの社会認識をどのようにひらいていくのか、香社研では、公民的資質・能力を育てるという観点から、次の4つの視点を置き、単元ごとの細かな内容を置くこととした。教材研究の段階からどの視点・どの内容から迫っていくかを明確に意識し、授業づくりを行っていくことが大切になる。

(2) 学習問題の魅力を創る

子どもの姿が素晴らしい授業には、「単元を見通す学習問題をもっている」という共通点がある。

単元を通して、どのようなことを明らかにしようとしているのか。本時は、どのようなことを明らかにしようとしているのか。子どもが見通しをもち、協働的に解決に向かっているのである。

毎時間、教師から与えられる問いを解決していく学習ではなく、解決すべき問題を見通せるので、授業以外での追究（調べ）も行われる。結果、授業に様々な情報が持ち込まれる。子どもの手持ち資料を生かしながら授業を行えば、「私の資料が使われた」と、追究意欲はさらに高まる。見通しをもたせるからこそできる技である。

① 仕掛けを考える

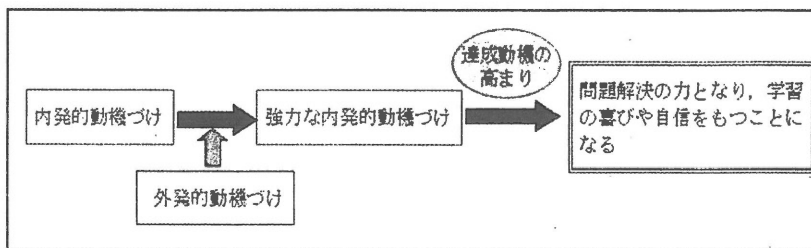
単元を見通す魅力ある学習問題をどのようにつくるのか。

まず、指導要領を分析する。いくら問いができて、指導要領の内容や先述した社会認識の視点の内容を通過する問いでなければ本質を外した学習になる。

次に、仕掛けを考える。①追究型（Aをもっと詳しく調べたい）②ギャップ型（AなのにB。どうして？）③経過型（A→Bどのように変わっていったのか）④価値判断型（A？B？ AかBか）など、資料を用意したり体験を通して子どもたちの動機を高める。

② 動機付け

意欲的に取り組むことは、問題（課題）意識をもつこと、問題（課題）を解決する喜びと自信をもつことなど、学習過程全体に機能する。この主体的な意欲をもつ大きな力は、「内発的動機づけ」と「外発的動機づけ」によるもので、この2つの動機づけの関係は、次の図に示すとおりである。



問題解決に立ち向かうため、自分のもっている経験や知識をもとにした「内発的動機づけ」を外的な情報や新たな体験による「外発的動機づけ」によって、一層強力にしていくことが、主体的に意欲をもって取り組む源になる。この

ことを、もう少し詳しく述べておく。

子どもは、対象に思いや願いをもつことができれば、自ずと意欲が高まり、自ら進んで活動したり、活動そのものに喜びを感じたりして、主体的にねばり強く活動する。それは、何かやりがいのあることを成し遂げたいという欲求、達成動機があるからである。「動機づけ」とは、何らかの行動を引き起こし、ある方向に向け、それを持続させる過程と定義されている。また、「達成動機」とは、活動の結果、成功や失敗として表れるような場面において、できるだけ高いレベルでものごとを成し遂げようとする動機で、いわゆる「やる気」である。そして、達成動機が高い子どもは失敗を恐れず成功を求め、自分の能力に適した少し難しい課題に挑戦する。一方、達成動機の低い子どもは、失敗を避けようとする気持ちが高く、確実に成功する課題か、ほとんど成功の見込みがない課題を選ぶと言われている。つまり、授業づくりにおいては、この達成動機を大切にしたい。

単元や授業づくりに置き換えると、「～を明らかにしたい」「～を達成したい」というゴール像が描け、単元の見通しをもてるようにすることと言い換えることができる。

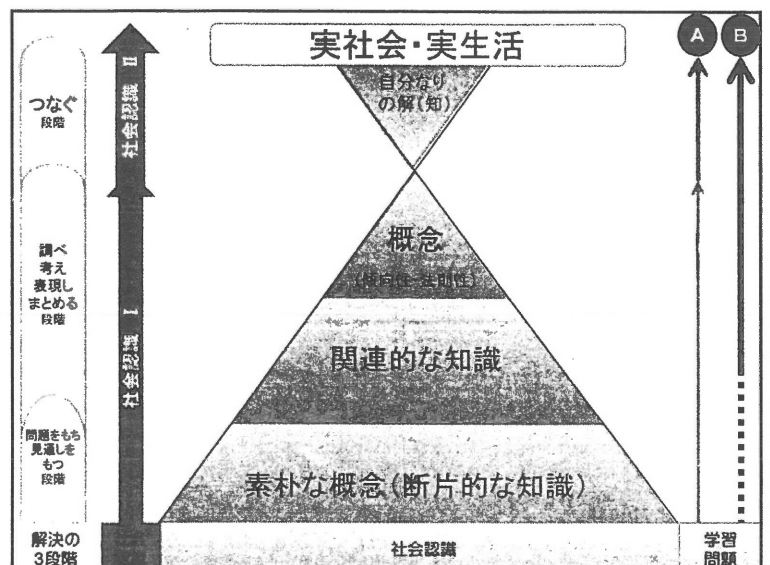
問いだけでなく、「何を」「どのように」して、「どうしたい」のかを明らかにした単元を見通す学習問題を創ることにより、子どもの内発的動機と達成動機を高める。

③ 学習問題の在り方

単元を見通す学習問題は、1次に何時間かけて子どもと作っていく。しかし、この時の資料の出し方、組み立て、時間のかけ方によって、学習問題の質は変わってくる。

■A型・・・概念を獲得した後、「つなぐ」段階前に新たな課題が見つかり深まっていく（深まった課題）型

■B型・・・単元の最初から、最後まで緩やかに見通し、だんだん深まっていく型
いずれにしても、子どものものにするのが大切である。



(3) 対話や協働の魅力を創る

対話や協働をいかに効果的で有効なものにしていくかを考える時、必ず学習問題や課題に対応させなければならない。見た目に対話が活性化しているようでも、課題からずれていたり、誰とでも協働するけど、解決にはいたらない協働であったりするからである。

また、可視化してともに考え、対話が充実させること工夫が求められる。この時に有効なのが思考図（シンキングツール）である。ここでは、5つの型を紹介する。【補助資料3】

また、対話は他者との間にだけあるものではない。自分との対話も大切にしたい。他者と対話したことをノート等で振り返り、分かったことや考えたことから自己調整したり再構成したりして学びを膨らませたい。

協働についても考えたい。社会科では友達や教師との協働だけでなく、地域の人や専門家との協働が見られた。ただ、協働といいながら、GT（ゲストティーチャー）として扱い、必要な部分だけを効果的に利用している感があつた。これからの社会を考えた時、GTではなくパートナーとしてつながることを求めたい。1単元に1度程度のGTではなく、単元の初め、中、終わりなど複数回関わり、調べを助けてもらったり、子どもたちの考えを評価してもらったりできるようにしたい。また、子どもたちだけにメリットがあるのではなく、「子どもの発想は面白いな。新たなアイデアをもらえたよ」

「将来一緒に働きたいと言われて勇気をもらった」と言うように、相手側にも学ぶ機会が与えられる関係を築きたい。

「GTからパートナーへ」。新たな時代の社会科の魅力を創るきっかけしたい。

(4) 社会との関わりを創る

子どもにとっても実社会・実生活の社会的事象の意味がわかったり、自分と社会がつながったりすることで社会科の魅力を存分に感じる。社会科では、これまで述べてきたように社会参画の活動そのものを含むものではないが、社会参画へのきっかけとなるよう「社会参画」を意識すること（つなぐこと）は重要なことである。ここでは、社会との関わりを創る手がかりを、これまでの香社研の実践から考えていく。

- ごみ問題を解決するために、自分たちができることを考え、取り組もう【直接参画型】
- 特色あるまちづくりをするために、どのような取り組みがよいか【創造型】
- 沖縄の事例のように、自然条件を生かした生活が地域にはあるか【地域着地型】
- 地域の祭りを継承（復活）するために、自分たちにできることは何か【創造型】
- 環境税の導入に賛成か反対か【価値判断型】
- 情報ネットワークを使って、過疎化をどう防ぐことができるか【創造型】
- 裁判員として、どのような判決（量刑）をくだすか。【価値判断型】
- 歴史を学ぶことは、自分たちにどのような意味があるのか【着地型】
- 県立中央病院の跡地に何をつくるべきか
- 〇〇さんの取り組みや考えから、自分や社会の在り方を考えよう【後ろ姿模倣型】

上記は、いずれも社会的事象（社会的な課題）を、自分ごととしてもものであり、社会参画を意識していく取り組みである。大切なのは、単元を通して追究しながら、上記の課題を考えるもと（概念）をもたせておくことである。その考えるもとがない状態で迫ることは、誤った社会への参画の仕方を意識させることにつながる危険がある。

また、考えるもとがない状態で出合わせ、目的意識や必要感をもって習得・活用していくことが考えられる。

本年度2月の全国大会に向け、さらに研究の精緻化と一般化を図っていきたい。

III 参考文献

- 「授業改革と学力評価」 北尾 倫彦 図書文化社 2008年
- 「子どもの思考力」 滝沢 武久 岩波書店 1984年
- 「考える・まとめる・表現する」 大庭・コティ・さち子 NTT出版 2009年
- 「学ぶ意欲の心理学」 市川 伸一 PHP新書 2001年
- 「学習心理学」 辰野 千寿 教育出版 1994年
- 「社会科ノート」による思考力の育成 香社研 東洋館出版社 2008年
- 「社会認識の系統からみた社会科新単元構成(試案)」 香社研 2008年
- 「自己調整学習の理論」 バリー・J・ジーママン, デイル・H・ジャンク編著 塚野州一編訳
北大路書房 2006年
- 「自己調整学習の実践」 バリー・J・ジーママン, デイル・H・ジャンク編著 塚野州一編訳
北大路書房 2007年
- 「自己調整学習と動機づけ」 バリー・J・ジーママン, デイル・H・ジャンク編著 塚野州一編訳
北大路書房 2009年
- 「自己調整学習の成立過程」 伊藤 崇達 北大路書房 2009年
- 「小学校学習指導要領解説 社会編」 文部科学省 2008年
- 「社会認識教育の構造改革」 社会認識教育学会編 明治図書 2006年
- 初等教育資料 3月号 「社会参画への意欲や態度を形成する教育の推進」 2012年
- 「新しい公共を担う人びと」 奥野 信宏 栗田 卓也 岩波書店 2010年 など
- 「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会一論点整理一」
文部科学省 2014年
- 教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書7
「資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の基準の原理」 国立教育政策研究所 2014年
- 初等教育資料 7月号 鼎談「問題解決的学習の充実をどう図るか」 2014年
- 社会科教育 8月号 「新視点で考える教材と授業作り」他 澤井陽介著 2014年
- 社会科の授業デザイン 澤井陽介著 東洋出版社 2015年
- 学習意欲の理論 鹿毛雅治著 金子書房 2013年
- ピア・ラーニング 中谷素之 伊藤崇達 金子書房 2013年
- 総則・評価特別部会 小学校部会中学校部会高等学校部会議論の取りまとめ 文部科学省 2015年
- 教育課程企画特別部会 ワーキンググループ資料 文部科学省 2015年

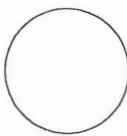
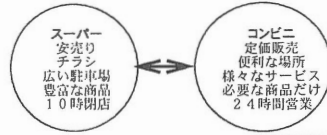
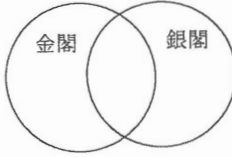
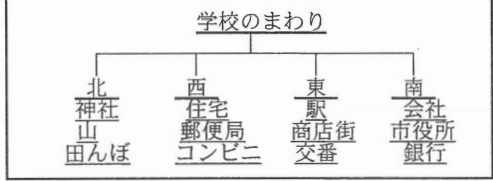
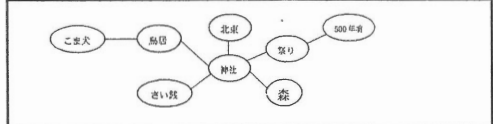
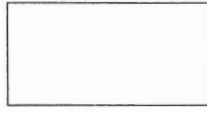
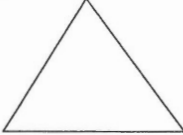
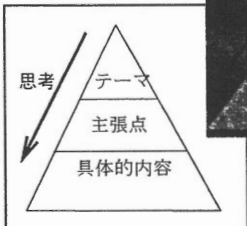
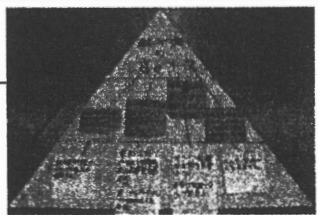
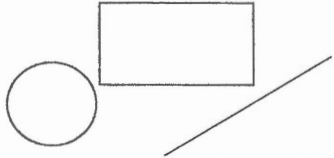
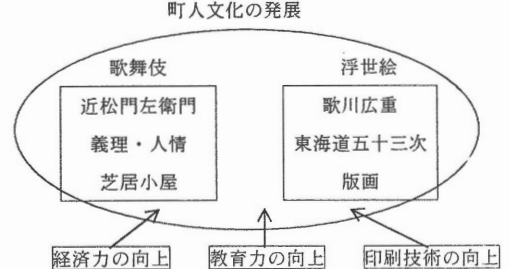
【補助資料 1】 生活科・社会科の目標と社会認識の関連

生活科の目標	社会科の目標	社会認識
自立への基礎を培う	公民的資質の育成	〈内容知（科学知・人間知）〉
(1) ・自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心をもつ ・地域のよさに気づき、愛着をもつ ・集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができる	社会生活についての理解	① 人びとが相互に様々なかかわりをもって生活を営みながら自らが社会生活に適応し、地域社会や国家の発展に貢献する。 視点1 社会生活の営みの認識 ◎ 私たちは、人や物との関わりの中で、くらし（生活）を営み、願いをかなえる努力をすること
	我が国の国土と歴史についての理解と愛情	② 知識基盤社会やグローバル化が進む時代の中で、国際社会に主体的に生き、持続可能な社会の実現を目指す 視点2 社会の変化に対応する認識 ◎ 社会の変化に目を向け、広い視野に立って自分の考えをもつ
		③ 土地と生活のかかわりの変化にともなう時代の特色を風土の中に築いた先人の働きを見つめ、伝統や文化に愛情をもち、受け継いでいく 視点3 我が国の歴史に愛情をもつ認識 ◎ 先人の働きに人間としての生き方や在り方を求める
	公民的な内容	④ 平和で民主的な国家・社会の形成者として市民・国民にふさわしく国際社会に主体的に生き、公共的な事柄に自ら参画していく 視点4 国際社会の一員として参画する認識 ◎ 国際社会の一員としての自覚をもち、社会事象のもつ意味を考える
		〈方法知〉 再構成の学習を「意欲」「思考操作」「評価」から組織し、主体的に学ぶ力を育成する。 再構成の学習を組織し、主体的な学習を進める中で、「思考と表現」「指導と評価」の統一を図り、言語活動の充実を目指す

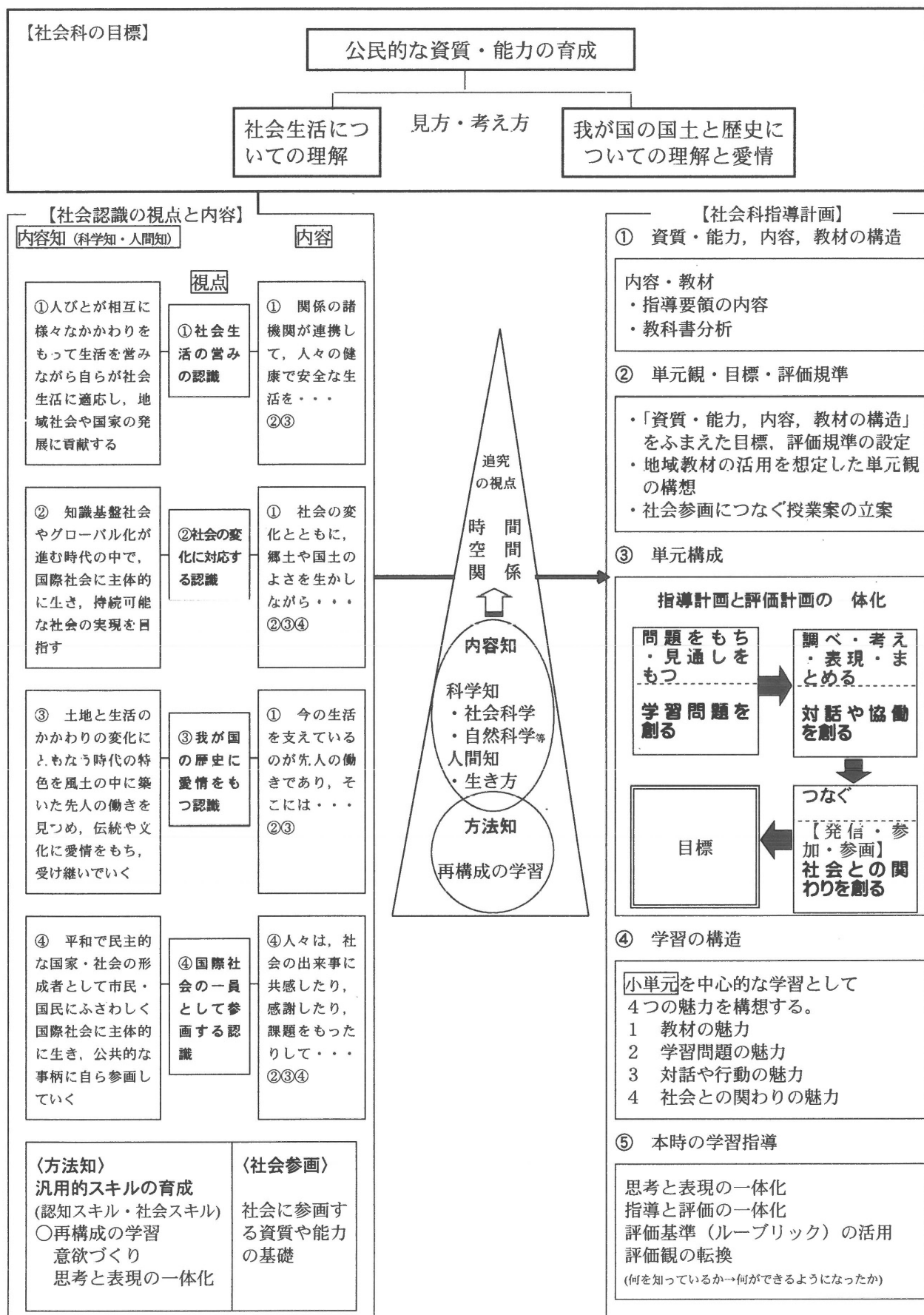
【補助資料2】社会認識の視点と内容表（試案）

視 点	事項(指導要領の内容から)	視点の内容
視点1 社会生活の営みの認識 ◎ 私たちは、人や物との関わりの中で、くらしを営み、願いをかなえる努力をしている	- 人々の健康で安全な生活を守るために、関係の諸機関が連携して政治が行われている - 地域では、人々にとって健康で安全な環境がある - 地域の人々の生活が、変化・発展していくため先人の働きがある - 地域社会に対する誇りと愛情をもつ	① 関係の諸機関が連携して、人々の健康で安全な生活を支えている ② 人々の生活が変化し発展する中で、人々の協力や先人の働きがある ③ 私たちは地域とかかわり、誇りと愛情をもつことが大切である
視点2 社会の変化に対応する認識 ◎ 社会の変化に目を向け、広い視野に立って自分の考えをもっている	- 身のまわりの生活は、地域・国土と環境とが互いに絡み合っている - 自分たちの生活は、他地域や外国とのかかわりをもちながら営まれており、人と物の流れを通して見ることが大切である - 地域社会の社会的事象の特色や相互の関連について考える - 我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について考える - 我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連、情報化の進展の意味について考える - 環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め、国土に対する愛情をもつ - 持続可能な社会の実現を目指す	① 社会の変化とともに、郷土や国土のよさを生かしながら、人々は生産や消費などで多くの課題に立ち向かって努力している ② 人々はよりよい社会を築くよう、環境・情報・福祉・防災などの課題に協力・連携して取り組んでいる ③ 持続可能な社会を目指す取り組みを進めることが大切である ④ 社会事象は相互に関連しており、日常の動きに目を向け、その事象のもつ意味を考えていくことが大切である
視点3 我が国の歴史に愛情をもつ認識 ◎ 先人の働きに人間としての生き方や在り方を求めている	- 地域の人々の生活の変化や地域の発展は、先人の働きによるものであり、人々の願いでもある - 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産の理解を深める - 我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心をもつ	① 今の生活にもつながる先人の働きがあり、そこには先人の知恵や願いがある。 ② 郷土や国の発展に尽くした先人の業績や文化遺産を大切に、受け継ぐことが大切である。 ③ 我が国の時代の特色をもとに歴史や伝統・文化に誇りをもつことが大切である。
視点4 地域社会、国際社会の一員として参画する認識 ◎ 地域社会、国際社会の一員としての自覚をもち、社会事象のもつ意味を考えている	- 身の回りや地域の具体的な事例を調べ、感動したり、共感したりして、日本人としての自覚をもつ - 地域社会の一員として社会事象の意味をより広い視野から考え政治の働きに関心をもつ - 平和を願う日本人として世界の国々の人と共に生き、互いの文化を尊重し、国際社会における我が国の役割を自覚する - 公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力をもつ	① 人々は、社会の出来事に共感したり、感謝したり、課題をもったりして社会を発展させようと努力している ② 地域社会の一員として、より広い視野から考え、政治に参画することが大切である。 ③ 国際社会における我が国の役割の現状から地域社会の一員としての自覚をもたなければならない。 ④ 平和を願う日本人として、世界の人々と共に生きることは大切である。 ⑤ 公共的な事象に、自ら参画

【補助資料3】思考図

	名称	思考の様相	例
①	サークルマップ 丸 	分析する 比較する 仲間分けをする 自分の考えをふくらませる	  
②	ツリーマップ 線 	考えを整理する 自分の考えをふくらませる 発想を広げる	 
③	フローマップ 四角 	順序性を明らかにする 原因と結果をつなぐ	
④	ピラミッドマップ 三角 	自分の考えを積み上げていく 考えを概念化する 主張点を具体で述べる	 
⑤	コンストラクションマップ 丸, 四角, 線等の 構成・組み合わせ 	いくつもの考えを構造化し、整理する	

【補助資料 4】 公民的な資質・能力の育成を目指した指導計画



平成28年度 本部役員組織

香川県小学校教育研究会社会科部会

香川県小学校社会科教育研究会

	氏 名	学 校 名
会 長	森 正彦	高松市立亀阜小学校
副会長	羽座 則史	小豆島町立星城小学校
	亀井 伸治	高松市立十河小学校
	岩崎 保雄	善通寺市立東部小学校
	福岡 和信	三豊市立詫間小学校
幹 事	樋口 昌樹	丸亀市立城東小学校
	田中 直樹	綾川町立昭和小学校
	上井 嘉	高松市立一宮小学校
会 計 監 査	石原 博	高松市立庵治小学校
	栗島 博人	東かがわ市立福栄小学校

顧 問（歴代会長）

糸川 達	柳 清茂	池内 博	岡野 啓
川田 豊弘	亀井 達男	曾根 照正	中田 清
上川 敦生	丸野 忠義	古市 聖治	大西 孝典
山崎 敏和	植松 勝	高橋 英武	唐木 裕志
佐藤 正文	岡根 淳二	徳田 仁司	野村 一夫
柴田 英明			

事務局	河田 祥司	黒田 拓志	轟 秀明
	藤本 博文	渡部 岳史	

平成28年度運営方針

香川県小学校社会科教育研究会

I 研究の在り方について

- ① 各支部の独自性を生かしつつ、全県が一体となって研究に取り組んでいくことが重要である。香社研の会員は、個人としての研究も大切にしつつ、組織で研究を進めることを大切にしたい。今年度も香社研においては各支部の研究と個人研究の両面を大切にしていきたい。
- ② 研究は、積み重ねが重要で、その核となるものは授業力である。これは学校の研究においても同じで、その学校の伝統を積み上げて「特色ある学校づくり」をしていく必要がある。香社研は、その時々課題や思いや論を単独に研究するものではない。伝統として積み重ねてきた研究の上に立ち、その時の課題を正面から受け止め研究を深めていきたい。時流に流された内容に偏らないようにしたい。

II 運営について

1 運営全体

- ① 若い世代が増え、香社研も新しい顔ぶれが見られ始めた。積極的に研修会などに参加したり、授業に立候補したりする若手が増えてきたことは、明るい兆しである。平成28年度の全国大会を1つの基点とし、さらに会員の意識改革を継続して行っていきたい。香川県から発信する。香川県から社会科教育や小学校教育の在り方について提案していくという気概をもち、自分の力をつけるために参加・参画するという意識を高めたい。本年度は、例年の香社研の活動に加え、全国大会の運営等が重なってくる。これを負担と考えるのではなく、さらに上昇傾向を加速させることができるチャンスと捉え、引き続き実地研修など、若い教員が主体となって企画・運営を行えるようにするなど、香社研で力をつけていくことができるような研修の在り方を探っていきたい。
- ② 「香社研」の特色づくりをもとに、様々な研修会において若年層、女性、さらには他教科の参加者数を増やす方向で取り組む。
- ③ 大会会場校との連絡を密に取り、スムーズな大会運営になるように努める。また、両会場校の独自性を尊重しつつ、県全体の研究として、足並みがそろった運営に心がける。

2 総会、反省会

- ① 総会は、今年度の運営方針、研究の方向性を明らかにする場でもあるので、各郡市の庶務、研究部を中心に多数会員が参加できるよう努める。
- ② 総会、反省会の会場は、理事会、総会、懇親会等の会場が必要であることと、全県から集まるため交通の便も考えなければならない。特に小豆から来る会員について配慮を行う。
- ③ 反省会等は、各郡市の交流の場でもある。全国大会に向けて、積極的に参加者を増やし、県全体のつながりを強くしていく。

III 研修会について

1 夏季研修会

- ① 夏季研は香小研社会科部会と香社研が主催する。
- ② 夏季研は、当該年度の各郡市の研究の成果を発表する場として位置付ける。香小研社会科部会並びに香社研として会員全員が集まる唯一の機会でもあるので、香社研のテーマに沿いながら、各郡市の発表を工夫して行う。なお、発表は全国大会の課題別分科会を意識したものとする。
- ③ 夏季研修会の会場確保及び運営については、当番郡市が中心になって行う。

2 定例研修会

- ① 定例研修会は、香社研が主催する。
- ② 定例研修会は、各郡市が香社研の研究主題を受けて、特色ある研究主題を設定し、その研究成果と課題を公表することにより、香川の社会科教育の発展に資するものである。全国大会に向け、香社研の研究が充実するよう提案の工夫を行う。授業公開、地域教材の紹介、模擬授業、香社研だよりによるアピールなど、各郡市の特色を出し、魅力あるものにしていく。
- ③ 定例研修会の担当を中心に、研究の推進と香社研のつながりや、仲間意識の醸成のために確保するために参加者が増えるように、魅力ある研修会の持ち方の工夫や声かけなどの宣伝を積極的に行う。
 - ・ 事務局は、全ての定例会に参加する。
 - ・ 指導者は2名とする。1名は、県教委、市教委、教育事務所等の指導主事を中心に当番郡市が依頼する。もう1名は、指導というよりも社会科教育を中心に教育一般について先輩として講話し、現職と先輩とのつながりを大切にする。当番郡市が、顧問・香社研の先輩方の中から依頼する。
- ④ 定例研修会の会場確保、指導者の依頼、運営については当番郡市が中心になって行う。

3 研究フォーラム

- ① 研究フォーラムは香社研が主催する。
- ① 本年度は、全国大会直後のため、フォーラムを全国大会慰労会として開催する。香社研館員や大会に関わった人たちと、ともに労い、交流する会とする。

Ⅲ 研究大会について

- ① 研究大会は、香小研社会科部会と香社研が主催する。
- ② 研究内容は、香社研の研究内容を基盤として、会場校の特色を生かした内容で研究を進める。
- ③ 大会の運営については、その都度香社研本部が提案し、理事会の議を経て行う。

Ⅳ 基礎・テストの編集について

- ① 社会科の基礎・テストについては、学力の充実を図る目的をもって、全国的・全県的な視野に立った編集を行う。
- ② 教科書、地図帳等に基づき編集を行い、学習の補充と発展を図り、適切な評価が行えるように常に改善に努める。
- ③ 基礎・テストの内容の充実のため、適切な検討の機会を設ける。
- ④ 質の向上を図る意味から3～6年に教頭・主幹教諭等の指導者を置く。
- ⑤ 会場費、執筆費、編集費、教材費等を確保し、円滑に編集が行えるようにする。

V その他

研究を深めたり、香社研の発展のために、携帯メールやHP等を使い、積極的に情報を発信、共有していく。

【事務局の役割分担】

事務局 事務内容		附属高松小			附属坂出小	
		河田	轟	黒田	藤本	渡部
研究 運営	研 究	◎		○	○	
	理事会・総会	◎		○	○	
	全国大会準備	総務部	○	◎		
		研究部	◎	○	○	
		庶務部	○		◎	
		発信記録部		◎		○
		宿泊輸送部		○		◎
研 修	夏季研修会			◎		○
	研究フォーラム	○		◎		
	定例研修会		東◎			西◎
	単元指導計画作成		◎		◎	
事 業	社会科の基礎・テスト		◎		○	
	香社研だより（情報発信）		東◎		西◎	
	社会科教室発行		164号			165号
	実地研修		○		◎	
	委託事業					◎
携帯連絡網管理			◎		○	
四国社会科協議会理事会		◎			◎	
会 計		◎				◎

平成28年度 年間運営・研修計画(案)

月	理事会 総会等	全国大会関連	運営部				編集部	情報発信部
			定例研修会 研究フォーラム	夏季研修会	指導計画	実地研修	社会科の基礎・テ スト編集委員会	社会科教室 香社研だより
4	9日(土) 9:30～ 庶務打合会 〈附属高松小〉 29日(金) 13:00～ 理事会 15:00～ 総会 〈附属高松小〉 17:00～ 歓送迎会 〈銀星旅館〉	29日(金) 9:30～ 第1回合同実行委 員会 〈附属高松小〉						
5		7日(土) 13:00～ 第1回会場校打合会 〈附属高松小〉			14日(土) 13:30～ 計画・分担 〈附属高松小〉 各担当者	14日(土) 11:00～ フィールドワー ク運営委員会 〈附属高松小〉 打ち合わせ会 (随時) 27日(金) 案内状発送	14日(土) 9:00～ 第1回 平成29年度1 基礎・テスト 〈附属高松小〉	社会科教室 第164号 (総会特集)
6	3日(金) 全小社理事会 〈東京〉 課題別分科会 2次案内提案	18日(土) 9:30～ 事前研修会 〈十河小〉 30日(木) 十河小研究授業 (中田先生来校)	25日(土) 9:30～ (丸亀) 〈 〉	11日(土) 13:30～ 事前検討会① 〈附属高松小〉 各郡市提案者 ・協力者参加 25日(土) 13:30～ 事前検討会② 〈附属坂出小〉	11日(土) 15:00～ 指導計画編集会 〈附属高松小〉		11日(土) 9:00～ 第2回 平成29年度1 基礎・テスト 〈附属高松小〉	
7	27(水) 12:00～ 理事会 (附高小)		9日(土) 9:30～ (高松) 〈 〉	9日(土) 13:30～ 事前検討会③ 〈附属高松小〉 16:30～ 会場下見 16日(土) 9:30～ 製本・発送 〈附属高松小〉 26(火) 会場準備 13:00～ 〈附高小〉 27日(水) 9:30～ 夏季研修会 (小豆・さ東) 〈附高小〉	16日(土) 指導計画編集会 15:00～ 〈附属高松小〉	1日(金) 追加募集 13日(水) 日程・乗車ポイ ント等発送	16日(土) 13:30～ 第3回 平成29年度1 基礎・テスト 第1回 平成29年度2 基礎・テスト 〈附属高松小〉	香社研だより (仲善) 夏季研修会 要項 (小豆・さ東)

8					27日(土) 指導計画編集会 13:30～ 〈附属高松小〉	20日(土) 21日(日) 実地研修 〈見学地検討中〉	平成29年度1 基礎・テスト入 稿・校正作業 (事務局)	
9		10日(土) 9:00～ 第2回合同実行委 員会〈附属坂出小〉 11:00～ 第2回会場校打合会 〈附属坂出小〉	24日(土) 9:30～ (三・観) 〈 〉		指導計画入稿		24日(土) 13:30～ 第2回 平成29年度2 基礎・テスト 〈附属高松小〉	香社研だより (高松) 香社研だより (実地研修報告)
10	20日(木) 21日(金) 全国大会 全小社理事会 〈名古屋〉	最終案内提案 (全小社理事会) 最終案内発送	15日(土) 9:30～ (仲・善) 〈 〉		指導計画完成		15日(土) 13:30～ 第3回 平成29年度2 基礎・テスト 〈附属高松小〉	香社研だより (三・観)
11	11日(金) 四国理事会 〈丸亀〉	★紀要入稿 ★要項入稿	12日(土) 9:30～ (坂・綾) 〈 〉				平成29年度2 基礎・テスト入 稿・校正作業 (事務局)	香社研だより (丸亀)
12	3日(土) 9:00～ 理事会 〈附属高松小〉 17:00～ 年末反省会 〈銀星旅館〉	3日(土) 11:00～ 第3回会場校打合会 〈附属高松小〉 13:30～ 第3回合同実行委 員会						
1								
2		4日(土)9:30～ 第4回合同実行委 員会 8日(水) 前日準備 9日(木) 1日目全体会 シンポートホール 10日 2日目 十河小、観音寺小 18日(土) 17:00～ 全国大会慰労会 〈 〉						香社研だより (坂・綾)
3	26日(日) 9:30～ 理事会 〈附属高松小〉							社会科教室 第165号 (本年度のま とめ)
備 考		未定 観音寺小研究授業 (安野先生来校) 観音寺小事前研						

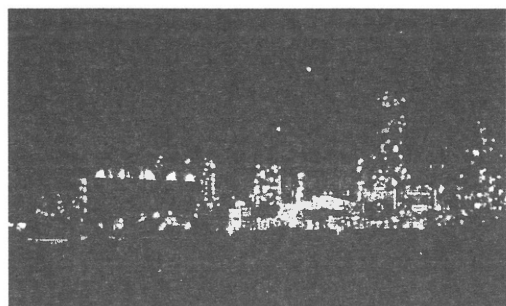
香社研 H28 フィールドワーク

伊勢と周辺 さらけの森



伊勢神宮・おかげ横丁

伊勢では絶対外せないスポット。伊勢神宮内宮は伊勢の宇治の五十鈴川のほとりに御鎮座しています。皇室の御祖神である天照大御神をご祭神とし、歴代天皇も訪れている格式のある神社です。2013年に式年遷宮が行われ大変話題となりました。



四日市ナイトクルーズ

四日市は幻想的な工場夜景を堪能できる全国有数の工場夜景都市です。

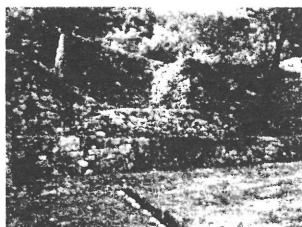
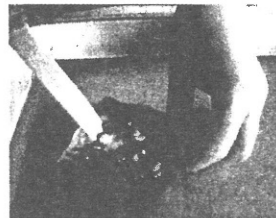
日本屈指の話題スポット！とっておきの美しさがここにあります。

日本五大工場夜景の聖地「四日市」
宝石のような工場夜景を堪能してください。

※ 天候等によって、予定が変わる場合もあります。
ご了承ください。

真珠取り出し体験

アコヤ貝から真珠が生まれる瞬間の神秘的な体験をお楽しみください。



安土城跡

恒例となりました日本百名城めぐり。今年は織田信長の居城跡です。本能寺の変で消失した後の石垣が歴史を語ります。

行程

8月20日(土)

坂出==高松==[淡路 SA]==[土山 SA]==

6:30 7:00 8:50 9:00 10:40 10:50

==伊勢神宮・おかげ横丁==真珠取り出し体験==

12:40 (昼食・手まり寿司) 15:00 15:30 16:30

==四日市ナイトクルーズ==懇親会==ホテル

18:30 20:30 21:00

ホテル 「ホテル ルートイン四日市」

所在 三重県四日市市陶栄町 11-1

電話 059-330-7020

8月21日(日)

ホテル==[土山 SA]==安土城跡==草津PA==

8:30 9:15 9:30 10:30 11:30 12:20 (各自昼食) 13:00

京都駅ビル周辺散策==淡路SA==高松==坂出

13:45 15:15 17:00 17:15 19:15 20:00

目的：① 教科書に掲載されている地域を中心に巡り、教材研究を深める。

② 教科、世代を問わず香社研や教員同士の親睦を深め、ネットワークを広げる。

交通手段：貸し切りバス

費用：1人25,000円(バス代・宿泊費・食事代など含む。当日集金します。)

申込方法：別紙ファックス用紙にてお申し込みください。(7月8日を〆切とさせていただきます。)

集合場所等：詳細については、後日、参加者の皆様に連絡いたします。

平成28年度 香社研 役員名簿

【高松市社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事(○)
会長	亀井 伸治	校長	高松市立十河小学校	○
副会長	森 正彦	校長	高松市立亀阜小学校	
副会長	石原 博	校長	高松市立庵治小学校	○
副会長	上井 嘉	校長	高松市立一宮小学校	○
副会長	大高 哲也	校長	高松市立東植田小学校	
庶務	瀧 義幸	教諭	高松市立一宮小学校	○
庶務	吉岡 光平	教諭	高松市立多肥小学校	○
庶務	西本絵里香	教諭	高松市立一宮小学校	
研究部	真鍋 長嗣	教諭	高松市立十河小学校	
研究部	水口 純	教諭	高松市立浅野小学校	

【高松北社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事(○)
会長	石原 博	校長	高松市立庵治小学校	○
副会長	森 正彦	校長	高松市立亀阜小学校	
研究部	仁科 大成	教諭	高松市立栗林小学校	
研究部	池田 康輔	教諭	高松市立栗林小学校	

【高松南社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事(○)
会長	上井 嘉	校長	高松市立一宮小学校	○
副会長	亀井 伸治	校長	高松市立十河小学校	
副会長	大高 哲也	校長	高松市立東植田小学校	
庶務	瀧 義幸	教諭	高松市立一宮小学校	○
庶務	吉岡 光平	教諭	高松市立多肥小学校	
庶務	西本絵里香	教諭	高松市立一宮小学校	
研究部	水口 純	教諭	高松市立浅野小学校	
研究部	高木 浩彰	教諭	高松市立国分寺南部小学校	

【丸亀社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事(○)
会長	樋口 昌樹	校長	丸亀市立城東小学校	○
副会長	遠藤 賢	校長	丸亀市立小手島小学校	
副会長	合田 吉宏	教頭	丸亀市立城東小学校	
庶務	増井 泰弘	教諭	丸亀市立郡家小学校	○
研究部	櫻井 道芳	教諭	丸亀市立郡家小学校	
研究部	和田 早苗	教諭	丸亀市立郡家小学校	
研究部	小野 咲絵	教諭	丸亀市立城乾小学校	
研究部	松浦 陽平	教諭	丸亀市立岡田小学校	

【坂・綾社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事(○)
会長	田中 直樹	校長	綾川町立昭和小学校	○
副会長	白川 豊浩	校長	坂出市立松山小学校	
副会長	福家 光洋	教頭	綾川町立綾川小学校	
副会長	福家 寿男	教頭	坂出市立林田小学校	
庶務	岡本 敏英	教諭	坂出市立坂出小学校	○
庶務	河野 富男	教諭	宇多津町立宇多津小学校	○
研究部	網野 未来	教諭	綾川町立昭和小学校	
研究部	青木 弥生	教諭	綾川町立陶小学校	
研究部	岡野 彩香	教諭	坂出市立川津小学校	
研究部	高野 雅信	教諭	宇多津町立宇多津小学校	
研究部	宮崎 由紀	教諭	坂出市立林田小学校	
研究部	水本 巧	教諭	綾川町立羽床小学校	
研究部	西尾 佳奈	教諭	綾川町立滝宮小学校	

【小豆社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事(○)
会長	羽座 則史	校長	小豆島町立星城小学校	○
副会長	日向 寿登	教頭	小豆島町立安田小学校	
庶務	平林 泰徳	教諭	土庄町立土庄小学校	○
研究部	林 宗利	教諭	小豆島町立安田小学校	
研究部	塩見 強	教諭	小豆島町立池田小学校	
研究部	上嶋 光晴	講師	小豆島町立星城小学校	
研究部	山本 祥太	教諭	小豆島町立苗羽小学校	

【さ・東社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事(○)
会長	来島 博人	校長	東かがわ市立福栄小学校	○
副会長	亀井 健男	教頭	さぬき市立津田小学校	
庶務	白澤 一修	教諭	東かがわ市立三本松小学校	○
庶務	原井 和彦	教諭	東かがわ市立白鳥小学校	
研究部	梅本 明宏	教諭	さぬき市立さぬき北小学校	
研究部	山崎 悠	教諭	さぬき市立石田小学校	

【仲・善社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事(○)
会長	岩崎 保雄	校長	善通寺市立東部小学校	○
副会長	佐柳 仁	教頭	まんのう町立満濃南小学校	
庶務	大木 陽平	教諭	まんのう町立満濃南小学校	○
庶務	大久保敬現	教諭	善通寺市立竜川小学校	
研究部	滝井 康隆	教諭	多度津町立四箇小学校	
研究部	竹森 仁志	教諭	琴平町立琴平小学校	

【三・観社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事(○)
会長	福岡 和信	校長	三豊市立詫間小学校	○
副会長	小西 寛	教頭	観音寺市立柞田小学校	
庶務	篠原 正議	教諭	三豊市立笠田小学校	○
庶務	泉宮 広也	教諭	三豊市立上高瀬小学校	
研究部	片山 大輔	教諭	三豊市立仁尾小学校	
研究部	出濱 大資	教諭	観音寺市立観音寺小学校	

平成28年度 香社研 研修会別会員名簿

【高松北社研】

○は各部会の代表者

研修会名	会員氏名	職名	学校名
定例研修会	青木 彩乃	教諭	高松市立高松第一小学校
	高橋 洋子	教諭	高松市立新番丁小学校
	佐野 千尋	教諭	高松市立新番丁小学校
	藤牧沙也香	教諭	高松市立新番丁小学校
基礎・テスト編集委員	○黒川 幸宣	教諭	高松市立牟礼小学校
	四宮 健	教諭	高松市立高松第一小学校
	上村 勇介	教諭	高松市立屋島東小学校
	白根 雅史	教諭	高松市立太田小学校
社会科情報発信	○藤牧沙也香	教諭	高松市立新番丁小学校
フィールドワーク運営委員	○小松 裕貴	教諭	高松市立亀阜小学校
指導計画作成委員	○池田 康輔	教諭	高松市立栗林小学校

【高松南社研】

研修会名	会員氏名	職名	学校名
定例研修会	靄羽 美緒	教諭	高松市立十河小学校
	高尾 悠司	教諭	高松市立十河小学校
	藤澤 大地	教諭	高松市立十河小学校
	久保 祐亮	教諭	高松市立十河小学校
	山下 悠	教諭	高松市立十河小学校
基礎・テスト編集委員	柏 徹哉	教頭	高松市立国分寺北部小学校
	○山田 泰二	教諭	三木町立氷上小学校
	造田 和高	教諭	三木町立氷上小学校
	小川 知樹	教諭	三木町立平井小学校
	久保 武大	教諭	三木町立平井小学校
社会科情報発信	○久保 武大	教諭	三木町立平井小学校
フィールドワーク運営委員	○加藤 優	教諭	高松市立多肥小学校
指導計画作成委員	○高木 浩彰	教諭	高松市立国分寺南部小学校

【丸亀社研】

研修会名	会員氏名	職名	学校名
定例研修会	多田 明広	教諭	丸亀市立本島小学校
	中島 敬	教諭	丸亀市立城北小学校
	馬場 直明	教諭	丸亀市立栗熊小学校
	白川真理子	教諭	丸亀市立飯山南小学校
	冨家 遼子	教諭	丸亀市立城北小学校
基礎・テスト編集委員	合田 吉宏	教頭	丸亀市立城東小学校
	○小山 沙織	教諭	丸亀市立飯山北小学校
	橋本 美穂	教諭	丸亀市立飯野小学校
	十河 弘賢	教諭	丸亀市立飯山北小学校
	櫻井 道芳	教諭	丸亀市立郡家小学校
社会科情報発信	○和田 早苗	教諭	丸亀市立郡家小学校
フィールドワーク運営委員	○長野 莉子	教諭	丸亀市立郡家小学校
指導計画作成委員	○櫻井 道芳	教諭	丸亀市立郡家小学校
	和田 早苗	教諭	丸亀市立郡家小学校

【坂・綾社研】

研修会名	会員氏名	職名	学校名
定例研修会	○網野 未来	教諭	綾川町立昭和小学校
	岡本 敏英	教諭	坂出市立坂出小学校
	河野 富男	教諭	宇多津町立宇多津小学校
	岡野 彩香	教諭	坂出市立川津小学校
	高野 雅信	教諭	宇多津町立宇多津小学校
基礎・テスト編集委員	福家 寿夫	教頭	坂出市立林田小学校
	宮崎 由紀	教諭	坂出市立林田小学校
	○青木 弥生	教諭	綾川町立陶小学校
	光中 梓	教諭	綾川町立陶小学校
	西尾 佳奈	教諭	綾川町立滝宮小学校
社会科情報発信	○高野 雅信	教諭	宇多津町立宇多津小学校
フィールドワーク運営委員	○佐藤 浩子	教諭	宇多津町立宇多津小学校
	山本 香代子	教諭	坂出市立坂出小学校
指導計画作成委員	○藤田 順也	教諭	坂出市立金山小学校
	○宇山 知昌	教諭	綾川町立綾上小学校

【小豆社研】

研修会名	会員氏名	職名	学校名
定例研修会	林 宗利	教諭	小豆島町立安田小学校
	平林 泰徳	教諭	土庄町立土庄小学校
	上嶋 光晴	講師	小豆島町立星城小学校
	山本 祥太	教諭	小豆島町立苗羽小学校
基礎・テスト編集委員	○塩見 強	教諭	小豆島町立池田小学校
社会科情報発信	○平林 泰徳	教諭	土庄町立土庄小学校
フィールドワーク運営委員	○佐藤 忠相	教諭	小豆島町立池田小学校
	上戸 杏奈	講師	土庄町立土庄小学校
指導計画作成委員	○山本 祥太	教諭	小豆島町立苗羽小学校

【さ・東社研】

研修会名	会員氏名	職名	学校名
定例研修会	白澤 一修	教諭	東かがわ市立三本松小学校
	原井 和彦	教諭	東かがわ市立白鳥小学校
	山崎 悠	教諭	さぬき市立石田小学校
	梅本 明宏	教諭	さぬき市立さぬき北小学校
	江崎 広典	教諭	さぬき市立さぬき北小学校
基礎・テスト編集委員	○六車 浩	教諭	東かがわ市立大内小学校
	田中由賀里	教諭	さぬき市立長尾小学校
社会科情報発信	○六車 浩	教諭	東かがわ市立大内小学校
フィールドワーク運営委員	○山崎 悠	教諭	さぬき市立石田小学校
指導計画作成委員	○白澤 一修	教諭	東かがわ市立三本松小学校
	和田 千幸	教諭	さぬき市立長尾小学校

【仲・善社研】

研修会名	会員氏名	職名	学校名
定例研修会	○大木 陽平	教諭	まんのう町立満濃南小学校
	滝井 康隆	教諭	多度津町立四箇小学校
	河村 高志	教諭	善通寺市立竜川小学校
	岡田 健	教諭	多度津町立豊原小学校
	滝井 良太	教諭	善通寺市立南部小学校
基礎・テスト編集委員	佐柳 仁	教頭	まんのう町立満濃南小学校
	○大木 陽平	教諭	まんのう町立満濃南小学校
	滝井 康隆	教諭	多度津町立四箇小学校
社会科情報発信	○藤田 啓明	教諭	善通寺市立西部小学校
	竹森 仁志	教諭	琴平町立琴平小学校
フィールドワーク運営委員	○尾崎 純一	教諭	善通寺市立筆岡小学校
	吉原 彬宏	教諭	善通寺市立筆岡小学校
	徳増 雅俊	教諭	まんのう町立満濃南小学校
指導計画作成委員	○大木 陽平	教諭	まんのう町立満濃南小学校

【三・観社研】

研修会名	会員氏名	職名	学校名
定例研修会	○篠原 正議	教諭	三豊市立笠田小学校
	出濱 大資	教諭	観音寺市立観音寺小学校
	古子 貴将	教諭	観音寺市立観音寺小学校
	白川 康太	教諭	観音寺市立観音寺小学校
基礎・テスト編集委員	萬亀 弘吉	教頭	三豊市立麻小学校
	○片山 大輔	教諭	三豊市立仁尾小学校
	浪越 由記	教諭	三豊市立比地大小学校
	石川 浩史	教諭	三豊市立松崎小学校
社会科情報発信	○大平 晃司	教諭	観音寺市立大野原小学校
フィールドワーク運営委員	○守屋 顕	教諭	観音寺市立柞田小学校
指導計画作成委員	○大平 晃司	教諭	観音寺市立大野原小学校

平成28年度 香社研 会員名簿

【高松北社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	高橋 洋子	高松市立新番丁小学校	2年
2	佐野 千尋	高松市立新番丁小学校	2年
3	藤牧 沙也香	高松市立新番丁小学校	3年
4	小松 裕貴	高松市立亀阜小学校	6年
5	森 正彦	高松市立亀阜小学校	校長
6	仁科 大成	高松市立栗林小学校	6年
7	池田 康輔	高松市立栗林小学校	3年
8	青木 彩乃	高松市立高松第一小学校	4年
9	白川 由美	高松市立高松第一小学校	5年
10	四宮 健	高松市立高松第一小学校	6年
11	石田 優太	高松市立太田小学校	4年
12	白根 雅史	高松市立太田小学校	6年
13	中筋 修	高松市立弦打小学校	6年
14	大奥 洋介	高松市立鬼無小学校	5年
15	中村 祥子	高松市立鬼無小学校	4年
16	田坂 好世	高松市立下笠居小学校	1年
17	熊野 真美	高松市立中央小学校	5年
18	氏原 美架子	高松市立中央小学校	4年
19	岩田 千鶴	高松市立中央小学校	特別支援
20	橋本 康裕	高松市立太田南小学校	専科
21	溝渕 恵一	高松市立太田南小学校	5年
22	上村 勇介	高松市立屋島東小学校	少人数
23	黒川 幸宣	高松市立牟礼小学校	6年
24	池田 茂樹	高松市立屋島西小学校	教頭
25	石原 博	高松市立庵治小学校	校長
26	戸城 一騎	高松市立木太南小学校	4年

【高松南社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	上井 嘉	高松市立一宮小学校	校長
2	瀧 義幸	高松市立一宮小学校	6年
3	西本 絵里香	高松市立一宮小学校	3年
4	野口 隆弘	高松市立一宮小学校	4年
5	吉岡 光平	高松市立多肥小学校	5年
6	加藤 優	高松市立多肥小学校	5年
7	亀井 伸治	高松市立十河小学校	校長
8	安倍 幸則	高松市立十河小学校	教頭
9	大嶋 和彦	高松市立十河小学校	教頭
10	森口 英樹	高松市立十河小学校	5年
11	真鍋 長嗣	高松市立十河小学校	4年
12	鶴羽 美緒	高松市立十河小学校	6年
13	高尾 悠司	高松市立十河小学校	5年
14	藤澤 大地	高松市立十河小学校	3年
15	久保 祐亮	高松市立十河小学校	6年
16	山下 悠	高松市立十河小学校	6年
17	大高 哲也	高松市立東植田小学校	校長
18	西山 雅道	高松市立植田小学校	4年

19	野土 裕彦	高松市立大野小学校	6年
20	森川 美香	高松市立大野小学校	3年
21	花房 祐史	高松市立大野小学校	3年
22	水口 純	高松市立浅野小学校	4年
23	黒川 浩一	高松市立香南小学校	5年
24	福家 正人	高松市立国分寺北部小学校	5年
25	高木 浩彰	高松市立国分寺南部小学校	5年
26	小川 知樹	三木町立平井小学校	4年
27	松本 美香	三木町立平井小学校	3年
28	山田 泰二	三木町立氷上小学校	専科
29	造田 和高	三木町立氷上小学校	4年
30	岡本 英孝	高松市立円座小学校	教頭
31	佐立 茂樹	高松市立香南小学校	教頭

【丸亀社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	小野 咲絵	丸亀市立城乾小学校	4年
2	氏家 保	丸亀市立城坤小学校	特別支援
3	中島 敬	丸亀市立城北小学校	専科
4	富家 遼子	丸亀市立城北小学校	4年
5	五嶋 隆裕	丸亀市立城西小学校	6年
6	池田 和樹	丸亀市立城西小学校	3年
7	岡野雄太郎	丸亀市立城南小学校	特別支援
8	樋口 昌樹	丸亀市立城東小学校	校長
9	合田 吉宏	丸亀市立城東小学校	教頭
10	前川 美穂	丸亀市立城東小学校	3年
11	阿野 裕子	丸亀市立城辰小学校	少人数
12	多田 明広	丸亀市立本島小学校	専科
13	長野 莉子	丸亀市立郡家小学校	3年
14	和田 早苗	丸亀市立郡家小学校	5年
15	櫻井 道芳	丸亀市立郡家小学校	6年
16	増井 泰弘	丸亀市立郡家小学校	専科
17	橋本 美穂	丸亀市立飯野小学校	6年
18	北分 英樹	丸亀市立飯野小学校	6年
19	寒川 英樹	丸亀市立垂水小学校	5年
20	遠藤 賢	丸亀市立小手島小学校	校長
21	眞井 孝征	丸亀市立富熊小学校	専科
22	馬場 直明	丸亀市立栗熊小学校	特別支援
23	松浦 陽平	丸亀市立岡田小学校	4年
24	小山 沙織	丸亀市立飯山北小学校	4年
25	岡田 直哉	丸亀市立飯山北小学校	6年
26	十河 弘賢	丸亀市立飯山北小学校	3年
27	白川 真理子	丸亀市立飯山南小学校	1年
28	乗松 直樹	丸亀市立飯山南小学校	5年

【坂・綾社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	大西 浩史	坂出市立坂出小学校	教頭
2	山本 香代子	坂出市立坂出小学校	1年
3	岡本 敏英	坂出市立坂出小学校	3年
4	藤島 太一	坂出市立坂出小学校	4年
5	田井 敏之	坂出市立東部小学校	校長
6	西川 奈歩	坂出市立東部小学校	5年
7	藤田 順也	坂出市立金山小学校	特別支援
8	丸尾 浩一	坂出市立西庄小学校	6年
9	川中 祥照	坂出市立林田小学校	校長
10	福家 寿夫	坂出市立林田小学校	教頭
11	山西由里子	坂出市立林田小学校	1年
12	宮崎 由紀	坂出市立林田小学校	特別支援
13	吉田 和弘	坂出市立加茂小学校	校長
14	島岡 真弓	坂出市立加茂小学校	2年
15	福田 佳代	坂出市立府中小学校	4年
16	岡野 彩香	坂出市立川津小学校	4年
17	白川 豊浩	坂出市立松山小学校	校長
18	藤井 隆法	坂出市立松山小学校	6年
19	福家 光洋	綾川町立綾上小学校	教頭
20	宇山 知昌	綾川町立綾上小学校	特別支援
21	田中 直樹	綾川町立昭和小学校	校長
22	網野 未来	綾川町立昭和小学校	6年
23	中村絵美里	綾川町立昭和小学校	特別支援
24	青木 弥生	綾川町立陶小学校	6年
25	光中 梓	綾川町立陶小学校	6年
26	西尾 佳奈	綾川町立滝宮小学校	6年
27	谷本 涼	綾川町立滝宮小学校	特別支援
28	花房 長広	綾川町立羽床小学校	校長
29	水本 巧	綾川町立羽床小学校	5年
30	河野 富男	宇多津町立宇多津小学校	特別支援
31	佐藤 浩子	宇多津町立宇多津小学校	特別支援
32	高野 雅信	宇多津町立宇多津小学校	少人数
33	蔵本 勝広	宇多津町立宇多津北小学校	特別支援
34	西村 拓弥	宇多津町立宇多津北小学校	3年

【小豆社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	羽座 則史	小豆島町立星城小学校	校長
2	日向 寿登	小豆島町立安田小学校	教頭
3	平林 泰徳	土庄町立土庄小学校	特別支援
4	松岡 典子	土庄町立土庄小学校	特別支援
5	上戸 杏奈	土庄町立土庄小学校	特別支援
6	塩見 強	小豆島町立池田小学校	特別支援
7	佐藤 忠相	小豆島町立池田小学校	5年
8	上嶋 光晴	小豆島町立星城小学校	専科
9	林 宗利	小豆島町立安田小学校	特別支援
10	山本 祥太	小豆島町立苗羽小学校	5年

【さぬき・東かがわ社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	乗島 博人	東かがわ市立福栄小学校	校長
2	竹内 久司	さぬき市立津田小学校	校長
3	亀井 健男	さぬき市立津田小学校	教頭
4	原井 和彦	東かがわ市立白鳥小学校	5年
5	白澤 一修	東かがわ市立三本松小学校	6年
6	六車 浩	東かがわ市立大内小学校	学力支援
7	久保田直寛	東かがわ市立大内小学校	5年
8	梅本 明宏	さぬき市立さぬき北小学校	5年
9	江崎 広典	さぬき市立さぬき北小学校	2年
10	山崎 悠	さぬき市立石田小学校	6年
11	和田 千幸	さぬき市立長尾小学校	学力支援
12	田中由賀里	さぬき市立長尾小学校	5年
13	江口 奈緒	さぬき市立さぬき北小学校	特別支援
14	正木 優子	東かがわ市立引田小学校	学力支援
15	成岡 喬穂	さぬき市立さぬき北小学校	5年

【仲・善社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	岩崎 保雄	善通寺市立東部小学校	校長
2	森 昭二	善通寺市立与北小学校	校長
3	寺嶋 俊秀	多度津町立四箇小学校	校長
4	佐柳 仁	まんのう町立満濃南小学校	教頭
5	大西 克哉	まんのう町立長炭小学校	教頭
6	大木 陽平	まんのう町立満濃南小学校	5年
7	藤田 啓明	善通寺市立西部小学校	3年
8	滝井 康隆	多度津町立四箇小学校	6年
9	竹森 仁志	琴平町立琴平小学校	6年
10	尾崎 純一	善通寺市立筆岡小学校	3年
11	岡田 健	多度津町立豊原小学校	5年
12	河村 高志	善通寺市立竜川小学校	5年
13	大久保敬現	善通寺市立竜川小学校	5年
14	三谷 恵	琴平町立榎井小学校	特別支援
15	高木 京子	琴平町立象郷小学校	少人数
16	横田 順子	善通寺市立中央小学校	5年
17	山下 敦	善通寺市立与北小学校	5・6年社会
18	岡谷 光博	善通寺市立吉原小学校	6年
19	滝井 良太	善通寺市立南部小学校	4年
20	宮武 知代	まんのう町立四条小学校	5年
21	大平理茶子	まんのう町立満濃南小学校	6年
22	吉原 彬宏	善通寺市立筆岡小学校	5年
23	徳増 雅俊	まんのう町立満濃南小学校	3年
24	小野 祐太	善通寺市立東部小学校	4年

【三・観社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	福岡 和信	三豊市立詫間小学校	校長
2	柴田 英明	観音寺市立柞田小学校	校長
3	臼杵 優	三豊市立松崎小学校	校長
4	深川 隆	観音寺市立観音寺小学校	教頭
5	小西 寛	観音寺市立柞田小学校	教頭
6	安藤 通	三豊市立財田小学校	教頭
7	萬亀 弘吉	三豊市立麻小学校	教頭
8	平口 真章	観音寺市立大野原小学校	6年
9	大平 晃司	観音寺市立大野原小学校	4年
10	井原 純平	観音寺市立大野原小学校	5年
11	藤田 政宏	観音寺市立大野原小学校	5年
12	木谷 厚子	観音寺市立観音寺小学校	5年
13	出濱 大資	観音寺市立観音寺小学校	6年
14	古子 貴将	観音寺市立観音寺小学校	5年
15	白川 康太	観音寺市立観音寺小学校	3年
16	堀 友博	観音寺市立観音寺小学校	5年
17	高橋 史弥	観音寺市立観音寺小学校	6年
18	石井 英樹	観音寺市立柞田小学校	5年
19	守屋 顕	観音寺市立柞田小学校	5年
20	篠原 正議	三豊市立笠田小学校	6年
21	浪越 由記	三豊市立比地大小学校	3年
22	泉宮 広也	三豊市立上高瀬小学校	6年
23	秋山 侑大	三豊市立上高瀬小学校	5年
24	眞鍋 ももこ	三豊市立麻小学校	3年
25	片山 大輔	三豊市立仁尾小学校	4年
26	岩橋 秀司	三豊市立曾保小学校	6年
27	矢野 勝裕	三豊市立詫間小学校	6年
28	秋元 一秀	三豊市立松崎小学校	6年
29	石川 浩史	三豊市立松崎小学校	4年

香川県小学校社会科教育研究会会則

1 総則

第1条 本会は、香川県小学校社会科教育研究会という。

第2条 本会は、会員相互連絡協調して、香川県社会科教育の振興を図ることを目的とする。

第3条 本会は、社会科教育に関心をもち、本会の趣旨に賛同する者をもって組織する。

2 事業

第4条 本会は、その目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 社会科教育振興に関する研究会、発表会、講習会を開くこと
- 2 社会科教育に関する資料の収集、情報交換をすること
- 3 社会科教育に関する編集、刊行をすること
- 4 定例研究集会及び研究委員会等の開催に関すること
- 5 文部科学省並びに香川県教育委員会等の諮問に答え、意見の具申をすること
- 6 その他社会科教育に関すること

3 役員

第5条 本会に、次の役員をおく。

会長 1名 副会長 若干名 幹事 若干名 会計監査 2名
理事（各郡市代表）若干名 顧問 若干名
事務局（運営・会計・研究部代表・編集部代表）若干名

第6条 会長、副会長は、理事会の議を経て、総会において承認する。

幹事、会計監査は、会長の指名とする。

理事は、各郡市研究会から選出する。

顧問は、本会の歴代会長とする。

事務局は、会長の指名とする。

第7条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

副会長は、会長をたすけ、会長事故のあるときは、その代理をする。

幹事は、本会の目的を達成するよう援助する。

会計監査は、会計事務を監査する。

理事は、理事会を構成し、重要事項を審議または議決し、会務の執行にあたる。

事務局は、運営事務、会計事務、研究事務、編集事務を処理する。

第8条 役員の任期は、1ヶ年とする。但し、重任することができる。

補欠役員の任期は、残任期間とする。

役員は、任期が満了しても後任者が就任するまで、その職務を行わなければならない。

4 理事会

第9条 理事会は、必要に応じて会長が招集する。

第10条 理事会は、総会に提出する議題を審議し、会務の執行に当たる。ただし、緊急を要する場合には会長、副会長で処理し、次の理事会の承認を求めるものとする。

5 総会

第11条 総会は、必要な場合会長が招集する。

第12条 総会は、必要に応じ、理事会から提出された事項について協議し、承認する。

6 定例研究集会

第13条 本会の事業を遂行するために、定例研究集会を開催する。

第14条 定例研究集会の組織及び運営については、理事会で決定する。

7 研究委員会等

第15条 本会の事業を遂行するために、研究委員会及び社会科の基礎・テスト編集委員会を開催する。

第16条 研究委員会及び社会科の基礎・テスト編集委員会の組織及び運営については理事会で審議し、委員会は会長が招集する。

8 会計

第17条 本会の経費は、会員の会費、寄付金並びに事業による収入金による。

第18条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第19条 本会の予算の議決および決算の承認は、総会で行う。

附則

1 本会の規約の改廃は、理事会で決める。

2 本会の施行に必要な細則は、別に定める。

3 本規約は、昭和24年4月1日より施行する。

4 平成13年1月8日改正、平成13年4月1日より施行する。

5 平成21年4月29日改正、同日より施行する。

6 平成22年4月29日改正、同日より施行する。

平成28年度

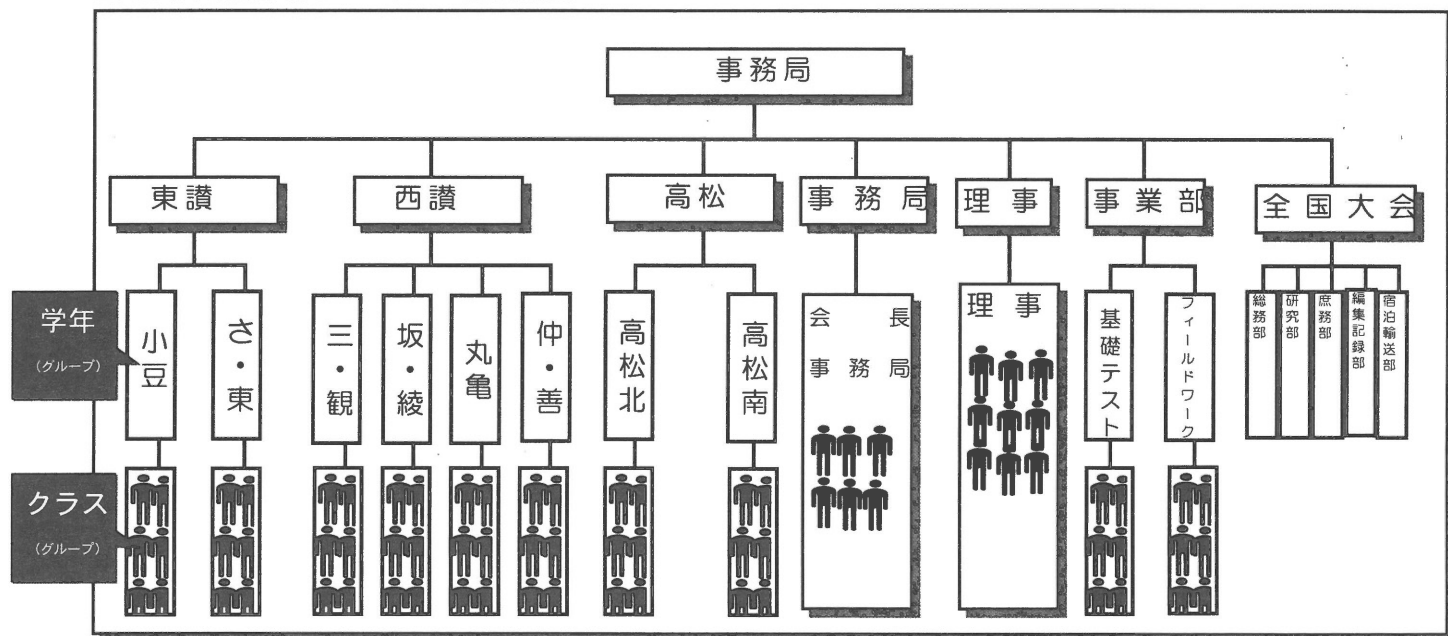
香社研 携帯メール 登録方法

当研究会では、平成23年度よりメールによる連絡網(ミッタシステム)を導入しています。このシステムは携帯、パソコン等の登録されたメールアドレスにメールを発信して、かつそのメールを見たかどうか管理者は確認できるシステムです。

■ 利点

- ① 今までのハガキやFAXと異なり、瞬時に全員に送れます。
- ② 伝達でなく同じ内容の文章が全員に配信できますので伝え忘れなどがなくなります。
- ③ 管理者さえメールアドレスを見ることができないのでプライバシーも保護されます。
- ④ 活動の案内などの緊急連絡に使えます(定例研・事前研 など)
- ⑤ 自宅に居なくても連絡は受け取れます(携帯メール使用時)
- ⑥ クラス単位で管理者(送信側)はメールを見たかどうか確認でき、また出欠も返事できます。
- ⑦ 退会、複数登録も自由にできます。

■ 香社研携帯メール 組織図



■ 各郡市での進め方(携帯メール登録方法)

後記の1~7の手順で、登録する。

※1 よく利用する携帯メールでお願いします。(アドレスは、他の人にはわかりません)

※2 理事、基礎テスト、フィールドワーク担当者は、各社研とは別に、もう一度クラスを追加登録してください。

3分でできる登録の方法

1 メールを送る

下記のメールアドレスに申請メール(宛先のみ。本文は不要です)を送ってください。

■ 申請メールの宛先 → ad@ptamt.com

■ QRコード利用時は



Docomo



AU SoftBank

2 ご案内メールが返ってくるのを待つ

登録画面のアドレスが記入された「学校連絡網登録のご案内」メールが返ってこない場合は、各携帯会社にお問い合わせください。

[件名] 学校連絡網登録のご案内

学校連絡網への登録を行ってください。
http://ptamt.com/*****

3 ご案内メールにあるアドレスをクリック

http://ptamt.com/***** 右図

4 学校コードを入力する

- ① 学校コードをクリック
- ② **6195645** を入力する。
- ③ 決定ボタンを押す

5 学年(グループ)を選択する

- ① 6つの学年(グループ)の中から、ご自身の所属グループを選択する。

■ 東讃 ■ 西讃 ■ 高松 ■ 事務局 ■ 理事 ■ 事業部 ■ 全国大会

- ② 決定ボタンを押す。

6 クラスを選択し、氏名を入力する

- ① クラスを選択する。

■ 小豆 ■ さ・東 ■ 三・観 ■ 坂・綾 ■ 丸亀 ■ 仲・善
■ 高松北 ■ 高松南 ■ 基礎テスト ■ フィールドワーク
■ 総務部 ■ 研究部 ■ 庶務部 ■ 編集記録部 ■ 宿泊輸送部

- ② 出席番号は、入れない。
- ③ 名前を入力する。
- ④ 決定ボタンを押す。

7 クラス等2つ以上に所属する場合は、追加登録する。

1～6を繰り返し、5や6で追加するクラスを追加登録する。

平成28年6月

各都道府県 教育委員会 教育長 様
各市区町村 教育委員会 教育長 様
各都道府県社会科教育研究会会長 様
各 都 道 府 県 小 学 校 長 様
関 係 の 皆 様

全国小学校社会科研究協議会 会長 坂本 正彦
平成28年度全国小学校社会科研究協議会研究大会
香川大会実行委員長 森 正彦

平成28年度 全国小学校社会科研究協議会研究大会
第41回 四国社会科教育研究大会香川大会
平成28年度 香川県小学校教育研究会社会科部会研究発表会

香川大会のご案内

第2次
案内

大会主題

「どのように学ぶか」の資質・能力を育て、社会科の魅力を創る教育

「未来の社会科教育を
どう考えていけばよいのか。」
新しい時代を築く
学習指導要領の告示の香川大会。
皆さんと一緒に香川の地で
新しい時代の社会科教育を
考えていきたいものです。
皆さんのご参加
心よりお待ち申し上げます。

第1日目

平成29年 2月 9日(木)

13:00 ~ 16:45

◆全体会会場

サンポートホール高松

第2日目

平成29年 2月10日(金)

9:30 ~ 16:25

◆第1会場

高松市立十河小学校

◆第2会場

観音寺市立観音寺小学校

◆第1日目 2月9日(木) 12:30~16:45 ◆

全体会講師 文部科学省視学官
澤井 陽介 先生

12:30 13:00 13:45 15:10 16:40 16:45 18:00 20:00

受付

開会行事

公開授業
大会主題提案

記念講演
澤井陽介 文科省視学官

閉会

レセプション

おもてなし

参加者や香川
県を元気にする
子ども達や各種
団体のおもてな
し、特産品の紹
介が行われます。

県提案



■ 県提案
香川県小学校社会科教育研究会
研究部長 河田 祥司
■ 公開授業

公開授業

最新情報

どこよりも早い
新学習指導
要領を澤井
先生が解説し
ます。

おもてなし

地域の小学
生による観光
案内やおもて
なしなどがあり
ます。

◆第2日目 2月10日(金) 9:30~16:25 ◆

【講師】 帝京大学大学院教職研究科
教授 中田 正弘 先生

第1会場 高松市立十河小学校

校長 亀井 伸治

PTA会長 崎山美幸

全校児童数 607人

学級数 25クラス

研究主題 「十河の香り」を育み、未来を拓き社会に出る教育

～6つの資質・能力「5領域カリキュラム」の社会科・生活科の学習を「課題解決的実践学習」で深める～

ポイント

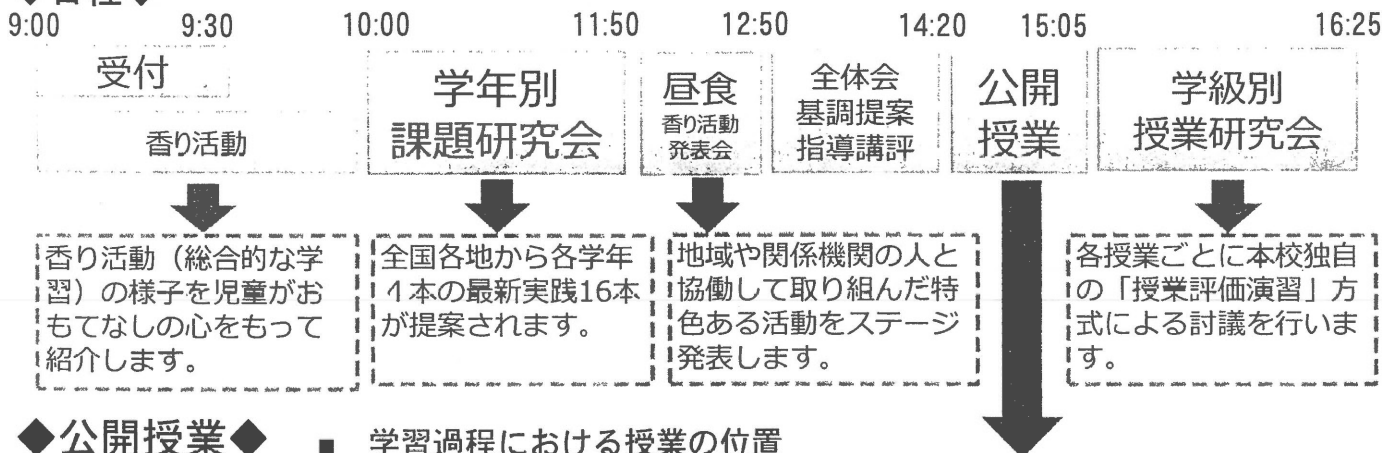
◇視点1：地域に開かれた教育課程の編成

◇視点2：アクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくり

◇視点3：カリキュラム・マネジメントとしての「授業評価演習」方式による授業研究

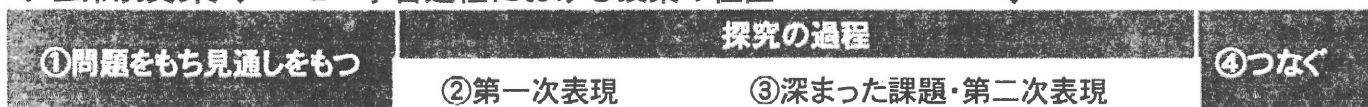
本校は、南に讃岐山脈の青い山並みが見え、周囲は、大規模商業施設と豊かな田園風景が混在しており、中世城郭「十河城」などの史跡なども点在する自然と文化が豊かな地域です。本校では、研究主題を「十河の香りを育み、未来を拓き社会に出る教育」とし、自然、文化・歴史、人などの恵まれた地域の資源を生かし、資質・能力の育成をめざした社会に開かれた教育課程「十河小プラン」をつくり、児童が意欲をもち主体的に学ぶ子どもづくりを目指し、研究を行っています。また、板書、評価、自己評価などを充実させ、社会的な見方・考え方をもとに思考操作や相互交流を通して思考を深め、主体的に課題解決を行う等、授業の日常化に取り組んでいます。

◆日程◆



◆公開授業◆

■ 学習過程における授業の位置



■ 授業・単元

持続可能な社会に対応し未来に向けてどのように生きるかを自分自身で考えていく資質・能力を育てる単元とし、学年の最終単元として意味づける。

学年・組	学習過程	単元名	学年・組	学習過程	単元名
生活科	保育園 1年3組	② みんなの力でこんなに大きくなったよ	1組 2組 ↓ 深まった課題 ↓ 協同	③ ④	地球を守る対策「環境」協働計画書をつくろう 〈わたしたちの生活と環境〉
	1年2組 2年3組	③ 夢いっぱいふるさとランドをつくろう	5年		
	2年3組	③ 思いや願いをもつ、わたしたちの未来	4組	③	
3年	2組	① のこし伝え、新しい「文化」をつくってくわえよう	2組	②	日本の役割を「資源」・自然・文化・人のもつ誇りから考えよう 〈世界の中の日本〉 ※2組はICT(タブレット)を活用した授業
	3組	③ 〈かわってきた人々のくらし〉	6年 3組	③	
4年	1組	② 住みよさとにぎやかさをつくり、「人口」をふやそう	4組	③	
	2組	③ 〈わたしたちの県〉			

◆第2日目 2月10日(金) 9:30~16:25 ◆

【講師】 國學院大學人間開発学部
教授 安野 功 先生

第2会場 観音寺市立観音寺小学校

〒768-0060 香川県観音寺市観音寺町甲2558番地1
電話 (0875) 57-5120 FAX (0875) 25-2338
E-mail kanonji_shou@city.kanonji.lg.jp

校長 三野 正

PTA会長 國岡 弘幹

全校児童数 561人

学級数 23クラス

研究主題

『今』を見つめ、『未来』を拓く社会科学習の創造

～ 主体的な追究によって社会的な見方や考え方を育てる授業づくり ～

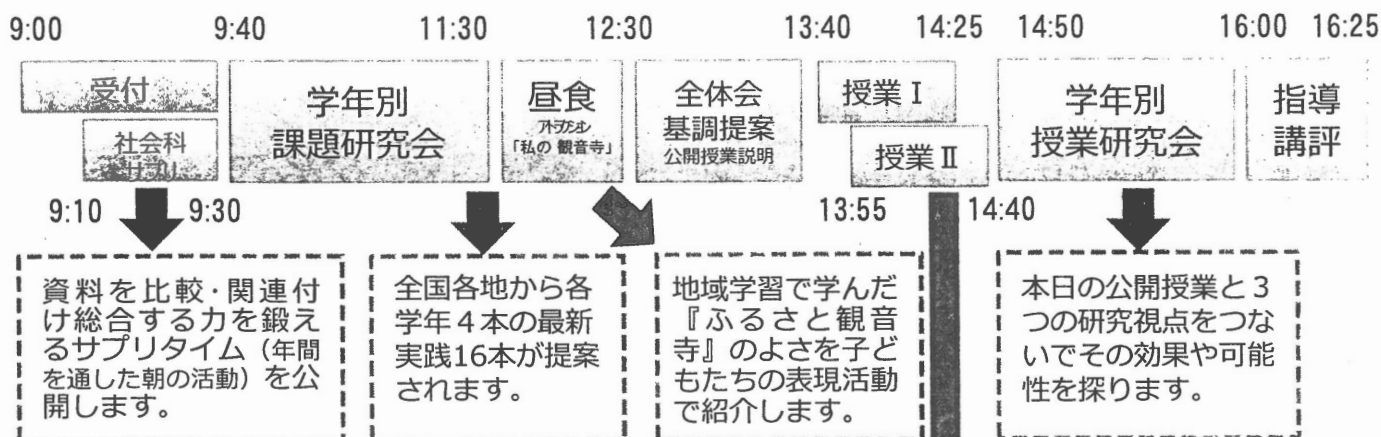
ポイント

- ◇ 視点1: 素朴な疑問から「本質に向かう問いへ…」の過程における「具体的支援」の工夫
- ◇ 視点2: 見方・考え方を培い「学び合い」を創出する「3つの観点(時間・空間・人間)」の活用
- ◇ 視点3: 学んだことを「整理・再構成」し次時へとつなぐ「振り返りツール」の開発と活用

本校は、平成26年4月に新設の観音寺小学校として開校しました。市の教育や行政の要所となる校区には、砂の芸術といわれる「寛永通宝」をはじめ、白砂青松の有明浜など豊かな自然にも恵まれ、商店街・農業地帯・港湾地区を有する多様な人の営みがつくり出す町となっています。

本校では、平成27年度から香川県教育委員会指定の「学力向上モデル校」として、社会科を核とした授業改善に取り組んでいます。そこでは、社会を捉える観点や自らの学びを再構成して次時へとつなぐ振り返りツールの活用など、上述した3つの視点から実践研究を進めています。これらの取組を通して、新しい学習指導要領が求める「主体性」・「多様性」・「協働性」を培う学習指導の在り方を探っています。

◆日程◆



◆公開授業◆

学年	授業名	学年	授業名
3年	味自慢! 観音寺かまぼこのヒミツ (工場の仕事)	5年	今こそ、南海トラフ地震に備えろ! (自然災害対策)
4年	町を元気に! ごんびら歌舞伎と町づくり (特色ある地域と人々の暮らし)	6年	田畑政治の見た戦後1964東京オリンピック (新しい日本・平和な日本へ)
	[授業Ⅰ] ◇安心・安全な商品づくりの工夫や努力 (5/11時間)		[授業Ⅰ] ◇生き埋め救助率100%を果たした北淡町の営み (3/9時間)
	[授業Ⅱ] ◇安心・安全な原材料の確保の工夫 (6/11時間)		[授業Ⅱ] ◇行政と市民の視点から捉えた防災マップ作りの充実 (7/9時間)
	[授業Ⅰ] ◇日本最古の芝居小屋から学ぶ文化財の価値 (5/11時間)		[授業Ⅰ] ◇「国際関係」「国民生活」「民主主義」の復興を果たした国民の努力 (4/9時間)
	[授業Ⅱ] ◇ごんびら歌舞伎を支える人々の努力や協力 (6/11時間)		[授業Ⅱ] ◇平和の祭典オリンピックにかくされたアジアの絆を創った田畑の努力 (8/9時間)

◆ 1 日目のポイント ◆

学習指導要領改訂を見据えた、提案・講演を行います。

学校、行政、地域が
協働するおもてなし

子どもの姿で
香川県提案

どこよりも早い
新指導要領の解説

◆ 2 日目のポイント ◆

午前に学年別研修会、午後から公開授業が行われます。

香川発
最先端の授業実践

全国より
最新の実践提案

授業だけじゃない
香川の取り組み

◆ 主張 ◆



予測困難な時代を迎え、社会科の魅力の一つである「何を学ぶか」を大切にしつつ、見えない時代をどう捉え、どう学び、切り拓いていくべきかという「どのように学ぶか」の資質・能力を育てることを目指します。これまで本県では、問いをもち、解決の見通しをもったり計画を立てたりすること、情報を集めたり振り返ったりしながらメタ認知するなど、自己調整する資質や能力。様々な情報を再構成し、判断、表現していく資質や能力等、「自己調整」と「再構成」を往還しながら問題を解決していくことを重視した社会科教育を求めてきました。

どのような時代になろうとも、自己調整と再構成を繰り返し、様々な人との結びつきの中で、最適解や納得解を生み出し、社会を切り拓いていける子どもを育てたいと願っています。新たな時代の魅力ある社会科教育の創出に向けて、多くの人と考えていける貴重な機会にしたいものです。

◆ 地方創生・香川 ◆



「四国は日本の縮図」と言われるように、人口減少、少子高齢化の急速な進行に加え、都市化を背景に人と人とのつながりが希薄化し、地域社会の連帯感や規範意識の低下、地域社会を支える人材の減少などにより、地域活力が低下しようとしています。このような問題を食い止め、地域の活力を維持することも大切ですが、これからの未来を見据え、学校や地域、各種機関がつながりながら新たな「ひと・もの・こと」を生み出していくことこそ、新たな時代を切り拓くことにつながります。

香川県大会では、小学校社会科だけに特化した一部の人だけの大会ではなく、学校や行政、地域の方々、各種団体等との結びつきの中で、新たな教育の形や社会科教育の在り方を模索していきます。

主 催

全国小学校社会科研究協議会
四国社会科教育協議会
香川県小学校教育研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会

後援(予定)

文部科学省 香川県教育委員会 愛媛県教育委員会
高知県教育委員会 徳島県教育委員会
高松市教育委員会 観音寺市教育委員会
全国連合小学校長会 香川県小学校長会
高松市小学校長会 観音寺市小学校長会
香川県小学校社会科教育研究会



香川大会事務局長 香川大学教育学部附属高松小学校 河田 祥司

【住所】 760-0017 香川県高松市番町5丁目1-55

【TEL】 (087)861-7108 【FAX】 (087)861-1106

【mail】 s-kawada@ed.kagawa-u.ac.jp

